



The Society of Education for Junior High, KAGAWA

香川県立教育研究会

51

R2

第29回四国中学校体育連盟研究大会
令和2年度 香川県中学校教育研究会保健体育部会研究大会
高松市立香南中学校

11月5日(木)



授業の様子



ゲームの様子②



ウォーミングアップ



作戦ボードを使った話し合いの様子



ゲームの様子①



単元で使用したワークシート

香中研 社会科部会 研究大会

土庄町立土庄中学校
土庄町立豊島中学校
小豆島町立小豆島中学校
11月5日(木)

香中研 数学部会 研究大会

三豊市立豊中中学校
11月5日(木)



ICTを用いた話し合い



教師に説明している様子(3年)



複数の資料を班ごとに分担し検証



自分の考えを発表する様子(2年)



生徒が教材を自分事として捉える



ペアで説明している様子(1年)

香中研 音楽部会 研究大会

高松市立古高松中学校
11月5日(木)



高松支部の研究部会（8月）

香中研 美術部会 研究大会

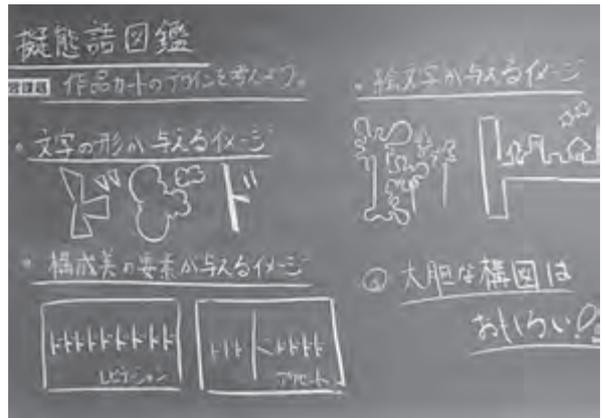
東かがわ市立大川中学校
11月5日(木)



授業での意見交換の様子



音楽部会研究部での検討会（8月）



書体デザインの板書



支部教科研修会での検討会（11月）



誌上発表に向けた検討会の様子

香中研 技術・家庭科部会 研究大会

宇多津町立宇多津中学校
坂出市立坂出中学校
11月5日(木)



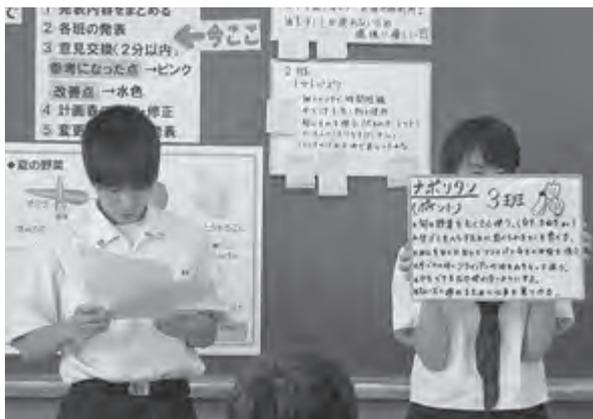
事前授業 (技術分野)

香中研 養護部会 研究大会

アイレックス
11月5日(木)



大川教授との交流 (指導・助言)



事前授業 (家庭分野)



大会救護の情報交換 (救急用品)



事前授業 (家庭分野)



講演・演習 (キュービスト体験)

香中研 若年教員授業力向上研修

国語部会	附坂中	12月3日(木)	数学部会	附高中	12月10日(木)
社会科部会(東部)	附高中	11月17日(火)	理科部会	附高中	11月30日(月)
社会科部会(西部)	附坂中	11月5日(木)	音楽部会	県教七	11月20日(金)



国語部会



数学部会



社会科部会(東部)



理科部会



社会科部会(西部)



音楽部会

香中研 若年教員授業力向上研修

美術部会	附坂中	11月5日(木)	技・家部会(家庭)	附坂中	11月9日(月)
保健体育部会	附高中	12月15日(火)	英語部会	県教七	12月4日(金)
技・家部会(技術)	附坂中	11月6日(木)			



美術部会



技術・家庭科部会 (家庭分野)



保健体育部会



英語部会



技術・家庭科部会 (技術分野)

目 次

香川県中学校教育研究会 研究紀要 第61号

グラビア（研究大会の状況）	道徳教育研究会……………22
はじめに	特別活動研究会……………23
香川県中学校教育研究会	生徒指導研究会……………24
会長 木谷直充…………… 1	メディア教育研究会……………25
	人権・同和教育研究会……………26
あいさつ	学校図書館研究会……………27
香川県中学校長会	教育相談研究会……………28
会長 久保博紀…………… 2	特別支援教育研究会……………29
	へき地教育研究会……………30
I 本年度の研究主題…………… 3	学校事務研究会……………31
	学校給食研究会……………32
II 本年度の研究発表と	
来年度以降の研究発表予定…………… 4	IV 事業報告
	本 部……………33
III 研究報告	各 支 部……………34
1 研究大会を実施した部会	各 部 会……………37
保健体育教育研究会…………… 5	若 年 研 修……………43
社会科教育研究会…………… 7	
数学教育研究会…………… 9	V 組織等
音楽教育研究会……………11	役 員……………44
美術教育研究会……………13	予 算……………46
技術・家庭科教育研究会……………15	会 則……………47
養護研究会……………17	部会運営細則……………49
2 研究大会を実施しなかった部会	研究大会開催地区割り当て計画……………50
国語教育研究会……………19	香中研とはこのような団体です……………51
理科教育研究会……………20	
英語教育研究会……………21	

は じ め に

香川県中学校教育研究会
会 長 木 谷 直 充

令和2年度、香川県中学校教育研究会の会員の皆様方には、コロナ禍の中、感染対策を講じながら研究活動に取り組んでいただき、誠にありがとうございました。

今年度は、教科の研究大会統一開催の年であり、以下の7つの部会で開催される予定でした。

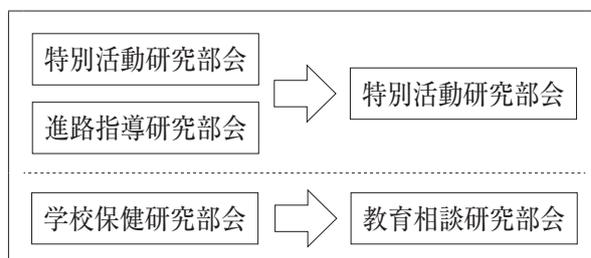
社 会	県大会	小豆・さぬき・東かがわ
数 学	県大会	三豊・観音寺
音 楽	県大会	高松
美 術	県大会	小豆・さぬき・東かがわ
保健体育	四国大会	高松
技術・家庭	県大会	坂出・綾歌
養 護	県大会	丸亀・仲多度・善通寺

しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、急きょ、誌上発表という形をとることになりました。担当郡市の皆様には、ご迷惑をおかけしました。研究内容については、数年間の研究成果が表れており、例年以上のものとなっております。本当にありがとうございました。

県の夏季研修会についても、教科部会、特別の教科・教科外部会ともに、すべて中止となりました。

若年教員授業力向上研修についても、例年、各教科2校（附属中学校と公立中学校）で実施し、2経～4経の先生を中心に、どちらかに参加してもらうようお願いしておりました。しかし、今年度については、1校での実施となり、通常の研究授業ではなく、VTRや別室での授業視聴・講演という形式となりました。授業進度や学校の行事等の理由から参加できなかった先生もいたことと思います。

また、今年度からは、教科外部会が次のように再編され、特別の教科・教科外部会は11となりました。



特別活動研究部会は、これまでの特別活動研究部会と進路指導研究部会が、統合・合併し、研究内容は両部会が研究してきた内容を引き継いでいます。

教育相談は、不登校問題をはじめ学校課題への対応策として、重要視されており、新しく教育相談研究部会がつけられました。研究主題は「学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくりと教育相談の充実 — ①教育相談の在り方とその充実 ②教育相談体制の充実 ③教育相談に関する教員の意識及び能力の向上 — 」となりました。

令和3年度には、新学習指導要領が全面実施となります。これに合わせて、香川県中学校教育研究会の研究主題についても新しくなります。また、英語の四国大会が、11月5日（金）にレクザムホールにて開催される予定です。開催郡市の高松市、英語部会の会員の皆様におかれましては、有意義な大会になるように、準備をお願いいたします。各郡市、部会におきましても、今年度以上に、充実した研修が行われることを期待しております。

最後になりましたが、香川県中学校教育研究会の研究活動に対して、ご指導・ご協力いただいております香川県教育委員会、各市町（学校組合）教育委員会、香川県中学校校長会、香川県教育会をはじめ、各教育関係機関の方々に対してお礼を申し上げますとともに、次年度も本会のさらなる発展・充実のため、格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

あ い さ つ

— 香中研への期待 —

香 川 県 中 学 校 長 会
会 長 久 保 博 紀

本研究紀要は61号となり、その歴史の流れに思いを馳せると、その重みと継承の重要性を改めて認識させられます。60年を越える長きに亘って、多くの諸先輩諸氏の創意工夫した教育実践を継承しながら本県の中学校教育を支え、また、時代の流れとともに変貌する社会環境や生徒の実態に応じて改善を図り、新たな教育を構築されてこられた香川県中学校教育研究会に対して、中学校長会として深く敬意を表します。

さて、今年度はコロナ禍という未曾有の事態となり、学校教育においても多大な影響を受けました。本研究会においても、3年に一度となる各教科の研究発表会の開催を断念せざるを得ませんでした。学校現場においては、感染防止対策の徹底が求められ、学校行事等は中止・縮小せざるを得ず、子供たちの健やかな学びをいかに保障していくのかが問われ続けてきました。

振り返れば、新年度に学校再開となったものの再び臨時休業となり、その期間は1か月半に及びました。この間、子供たちには自学自習の取組を課すことになり、学校においては、各々の教育環境や生徒の実態を踏まえて、課題が適切なものとなるようその評価の在り方も含めて確認し整えました。このことは、子供たちに直接関われない中で、教育効果をどう高めるのか、正に教育のプロとしての力量が、これまでにない形で問われるものとなりました。

臨時休業が長引く中、オンライン学習の必要性が叫ばれ、こうした世論が後押しとなって、県内の全ての市町において、今年度中にGIGAスクール構想による一人一台タブレット端末が整備されることとなりました。このことにより、学校には、ICTの活用による「個別・最適化された学び」をコンセプトとした教育指導の充実が一気に求められることとなりました。

こうした環境整備がなされることは歓迎しつつも、その目的を見失うことがないように留意しておかなければならないと感じています。それは、社会的風潮からは、多くの関心がオンライン学習に集まるのが過分に予想されるからです。その意味で、私たちは、ICTの活用による「個別・最適化された学び」の目指すところは、新学習指導要領の趣旨でうたわれている『主体的・対話的で深い学びの実現』であり、その目的は、“個別・最適化と言う観点から、個に応じた多様な学習機会と場の提供”とともに、“多様な見方・考え方を働かせて、共に課題解決を図る学習機会と場の提供”であることをしっかり認識しておく必要があります。

また、県教育委員会においては、来年度から35人以下学級の推進等による新しい指導体制の実施が検討されています。その新しい指導体制のコンセプトは、これまでの「個に応じたきめ細かな指導」の継承（知識・技能）に加え、新たに「個を活かす協働的な学び」の充実（思考や意欲）が示されており、先程のICTの活用による「個別・最適化された学び」の目指すところと合致しています。

このように時代の流れが大きく変わろうとしている今、本研究会におかれては、その変化に翻弄されることなく、次代の教育の有り様をしっかりと見定めて、子供たちの健やかな学びの保障につながるよう、その教育指導の充実という観点から道筋を示していただけることを切に願うとともに、期待するところであります。

結びに、木谷会長をはじめ、関係の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、本研究会の今後ますますの充実・発展を祈念申し上げます。あいさつといたします。

I 本年度の研究主題

1 研究主題（平成24年度より令和2年度まで継続）

教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動

（キーワード） 継承・改善 研究体制 資質・能力
主体的・対話的で深い学び カリキュラム・マネジメント

2 研究主題設定の理由

本会は昭和36年に発足し、県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言、支援を受けながら、また連携を図りながら本県の中学校教育の振興に大きく寄与してきた。本会を今後さらに充実・発展させるためには、次の3点の課題を解決する必要がある。

① 現在、教員の高齢化と大量退職に伴い、学校現場において、ベテラン教員の専門的な知識やスキルの伝承が課題とされている。また、各支部・部会における実質的な担い手が学校においても主要な役職にあるなど高齢化が問題となっている。今後、スムーズな世代交代を図り、研究方法や組織運営のスキル等を次の時代を担っていく若手教員に確実に伝えていく必要がある。（継承・改善）

② 教職員が研究授業や実践発表を進んで行う姿勢は、学校の活性化につながるものである。各学校においては、教職員に対して、研究会活動への積極的な参加を促すとともに、研究会の役割と意義について、自覚を求めていく必要がある。

また、各支部・部会における研究活動の成果や課題を教職員自らの実践としてさらに反映させるとともに、各学校においては、成果や課題を共有し合う場を設定するなど、香中研の研究活動を学校の教育活動に生かせるように、研究体制の更なる充実を図る必要がある。（研究体制）

③ 「授業が変われば、生徒が変わる」と言われるように、時代が変化しても授業力の向上は必要不可欠である。県教育センターの平成29年度全国学力・学習状況調査報告書の「質問紙調査の結果から見る5年間の軌跡～香川県版～」によると、「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。」の質問に対し、肯定的な回答が、平成25年の15.5%から平成29年の38.4%へと5年間で大きく増加している。「1・2年生のときに受けた授業では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」の質問に対しても、肯定的な回答が12.5%から27.1%へと増加している。これらは、各学校が進めてきた授業改善等の成果であり、香中研の研究主題を、これまでの生徒像から、個々の教師像や学校像に変更し、授業力を中心に教職員の資質・能力に着目した研究を行ってきた成果でもある。香中研の自主研究団体としての性格を明確に打ち出し、加入する全教職員、全中学校に研究会の一員であることの自覚を促し、教職員の資質・能力の向上や学校の教育力の向上をめざし、さらなる研究会活動の活性化を図る必要がある。（資質・能力）

また、平成28年度の中央教育審議会答申において、授業改善に関わる次の新しい視点が

示された。

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点
- ・ 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点
- ・ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点

これら3つの視点に立った授業改善を行い、質の高い学びを実現するとともに、生涯にわたって能動的に学び続ける生徒の育成をめざしていきたい。（主体的・対話的で深い学び）

さらに、生徒は学校教育全体の取組の中で育つ。そこで、各学校においては、

- ・ 生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
 - ・ 教育課程の実施状況を評価しその改善を図っていくこと
 - ・ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと
- などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るようにしていきたい。（カリキュラム・マネジメント）

3 今後の研究推進について

本会が目的とするところは、生徒に生きる力を育てるために一人一人の教職員が、各支部・部会での研修等の活動を行うことで、個として高めた意欲や知識・技能が学校現場に反映され、学校が組織として機能する力として高められることである。したがって、本研究主題は、研究会活動とそれを生かす学校教育の在り方も視野に入れたものである。そこで、次の点に重点を置きながら、各支部・部会で計画的に実践していくこととする。

- ・ 研究の継続性を図るため、本研究主題を平成32年度まで継続する。
- ・ これまで各支部・部会で研究実践してきた指導法の研究を継続、発展させながら、ベテラン教職員から若手教職員への指導法等の継承を図る。
- ・ 継承の視点で見直した各支部・部会の研究体制のもと、授業に関する実践的研究等を組織的に行い、改善の視点から研究の成果と課題を明確にする。

Ⅱ 本年度の研究発表と来年度以降の研究発表予定

■ 令和2年度研究大会（誌上発表）

番号	部会名	期 日	郡市	会 場 校	規模	大 会 主 題
1	社 会	11月5日(木)	小・ さ・東	土庄町立土庄中学校	県	未来社会につなぐ社会認識の構築 —授業力の継承、そして創造—
2	数 学	11月5日(木)	三観	三豊市立豊中中学校	県	生徒が主体的に取り組む授業づくり —図形領域における数学的活動の充実を目指して—
3	音 楽	11月5日(木)	高松	高松市立古高松中学校	県	音楽を通して人や社会と豊かにつながる生徒の育成 —「音楽的な見方・考え方」を働かせた学びの実現を 目指して—
4	美 術	11月5日(木)	小・ さ・東	東かがわ市立大川中学校	県	生活を美しく豊かにする美術の学び
5	保健体育	11月5日(木)	高松	高松市立香南中学校	四国	健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現する保 健体育学習の創造 —生徒が学びを実感できる保健体育学習の充実—
6	技術・家庭	11月5日(木)	坂綾	宇多津町立宇多津中学校 坂出市立坂出中学校	県	社会の変化に主体的に対応し、よりよい生活を創造す る技術・家庭科教育 —問題解決的な学習の質を高める指導法のあり方—
7	養 護	11月5日(木)	丸仲善	アイレックス	県	養護教諭の専門性の深化をめざして —時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる—

■ 令和3年度研究大会

番号	部会名	期 日	郡市	会 場 校	規模	大 会 主 題
1	英 語	11月5日(金)	高松	レクザムホール	四国 (小 中 高)	グローバル社会において未来を切り拓く力を育成する 英語教育を目指して

■ 令和4年度研究大会

※期日は統一日（H30、第2回運営委員会）

番号	部会名	期 日	郡市	会 場 校	規模	大 会 主 題
1	道徳教育	11月第1週の 統一日に開催 する。 へき地教育は 4年毎の別 ローテーショ ンで行う。	丸仲善	普通寺市立西中学校	県	大会主題は、各部会が中心となり、会場校とも協議し ながら、少なくとも1年前までには決定し、事務長が 事務局に報告する。
2	特別活動		三観	観音寺市立豊浜中学校	県	
3	生徒指導		高松	高松市立香川第一中学校	県	
4	メディア 教 育		高松	高松市立屋島中学校	県	
5	人 権・ 同和教育		高松	高松市立香東中学校	県	
6	学 校 図 書 館		小・ さ・東	東かがわ市立白鳥小中学校	県	
7	教育相談		高松	高松市立太田中学校	県	
8	特別支援 教 育		三観	三豊市立詫間中学校	県	
9	学校事務		高松	レクザムホール	県	
10	学校給食		高松	高松市立塩江中学校	県	

Ⅲ 研究報告

1 研究大会を実施した部会

健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現する 保健体育学習の創造

保健体育教育研究部会

1 研究主題について

社会がいかに変化しようとも、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するためには、自他の運動や健康についての課題を自ら発見したり、課題解決の道筋を立て解決に向けて取り組んだりでき、そして一人一人が運動や健康の価値を見出していくことが大切である。すべての生徒が学ぶ意義を実感できる保健体育学習をめざして、本教科の在り方を問い直す。

2 研究の概要及び大会内容

(1) 研究大会（四国中体連研究大会）

【大会主題】

健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現する保健体育学習の創造—生徒が学びを実感できる保健体育学習の充実—

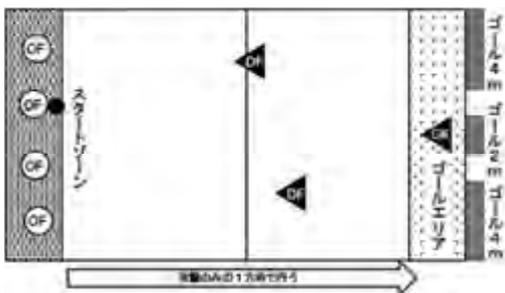
①単元 第1学年球技「ゴール型（サッカー）」

②授業者 市原 孝洋（高松市立香南中学校）

(2) 3つの“対話”をキーワードにした授業づくり

① 教材との“対話”—ゴール型の魅力や面白さを味わわせるために—

技能や体力等に関わらず、すべての生徒が、「たくさん点を取るために、どこにパスを出せばいいのか、ボールを持たない人がどこに動けばいいのか」を夢中になって考える姿が見られることをめざして、次のようなゲームを行うこととした。



- ・攻撃4名、守備2名+GK1名（男女混合）
- ・攻撃はスタートゾーンからパスのみで攻める。得点するかボールがコート外に出たら、スタートゾーンへ戻る。制限時間内何度でも攻撃を行うことができる。
- ・ゴールエリア内はゴールキーパーのみ。

② 自己との“対話”—自己の課題や成長と向き合わせるために—

単元を通して1枚のワークシートを使用し、毎時間の学びを記入できるようにした。また、単元前の既存の知識や考えを書かせ、単元後に同様の内容を書かせるようにした。ここで問うことは、本単元で学ばせたいことである。記入させることで、自己の考えの変容に気づかせたり、本単元で学ばせたいことへの意識づけにもなったりすると考えた。

③ 他者との“対話”—課題解決をめざすために—

運動技能や体力、性別、これまでの経験等に関わらず、すべての生徒が対等に意見を言うことができる場をつくることが重要である。そのために、課題解決のための話し合い場面で、誰もが気づいたことを発言することができる客観的な資料やデータを活用した（表）。客観的な資料やデータにより、チームの課題が視覚的に分かりやすくなると考えた。

表 本単元で活用した資料やデータ

活用した資料等	内容
映像データ（タブレット）	タブレット端末で自分たちの動きを撮影し、ゲーム後すぐに視聴できるようにする。
映像データ（上から）	前時の動きを体育館2階から撮影したもので、空いているスペースを認識しやすくする。
攻撃データ	攻撃回数、シュート数、得点を記録したもの。各チームのシュート率、決定率が分かるようにする。

(3) 成果と課題

単元のはじめに行った試しのゲームでは、すべてのチームでパスがつながらず、得点を取ることができない状況だった。その原因として、「パスがつながらない原因」を理論的に分かっていないことだと判断した。そこで、なぜパスがつながらないのかを、映像資料を用いて考えることができるようにした(図1)。パスがつながったシーンと、パスカットされたシーンとを比較し、ディフェンスの位置や、攻撃する時に有効なスペースの有無、ボールを持たない選手がどのように動くのかを何度も話し合った。単元が進むにつれ、「スペース」や「〇〇に動こう」、「いつパスを出すか」等、本単元で身につけてほしい内容に関連するキーワードが、生徒の発言の中で何度も出るようになった。その結果、単元のはじめでは、あまり動くことができなかった生徒(特に運動の苦手な生徒)も、単元後半では、何度もパスをもらおうとスペースへ走り込んだり、得点をとって喜んだりする姿が多く見られた。



図1 映像資料を活用した指導

単元前後の生徒アンケートでは「運動やスポーツをすることは好きですか。」、「あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか。」、「保健体育の授業は楽しいですか。」等の項目においては、いずれも肯定的回答率が高まった(図2)。

研究大会総論や実践事例、研究の成果や課題については、香中研保健体育部会ホームページに掲載しています。右の二次元バーコードからアクセスできます。

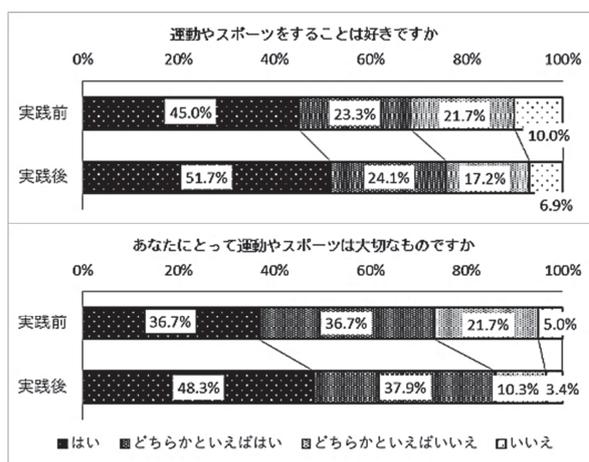


図2 単元前後のアンケート結果

3 令和2年度の各支部の研究の概要

【小豆支部】

今年度は球技(卓球)で授業を行い、研究を進めた。授業では、様々な技能レベルの相手と練習を行うことで、自分が教える側になったり、教えられる側になったりと、様々な立場から考えて活動することで、「深い学び」につなげることができた。

【さぬき・東かがわ支部】

生徒が主体的に課題解決に向かうことができるようにするために、話し合い活動における教師の手立てについて検討した。思考を深めるキーワードを使った掲示やワークシートが効果的ではないかと考えた。

【坂出・綾歌支部】

「深い学び」の実現に向け、どのように学ぶか、何が身に付いたかに重点をおいた。球技において、なかまと連携した動きを発展させて、作戦に応じたゲーム展開ができるよう、「ボールを持たない時の動き」に着目し、研究を進めた。

【丸亀支部】

ソフトボールの授業の中で学び合う場を設定した。運動の得意な生徒をチームに一人配置し、ティーバッティングの横で球をセティングする役割をさせたことにより、運動の得意な生徒と苦手な生徒が自然と話し合い、苦手な生徒も意欲的に授業に参加することができた。

【仲多度・善通寺支部】

男女共習授業について研究を進めた。研究授業は、男女や運動の得意・不得意、そして、体力差を考慮して実施した。男女共習を行ってみて、体力差や運動能力差が男女別習よりも大きく見られ、授業作りの難しさを感じる一方で、どのようにしたら運動が苦手な生徒に配慮した授業作りができるのか、これまでよりもルールや教具への工夫を考えるようになった。

【三豊・観音寺支部】

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育てる鍵となるのは「生徒の見方・考え方」であると捉え、特に「発問」に注目し、教師の発問によって見方や考え方を広げ、深める授業づくりを試みた。

未来社会につなぐ社会認識の構築

～ 授業力の継承、そして創造 ～

社会科教育研究部会

1 研究主題について

これまで社会科教育研究部会は、平成24年度の全国中学校社会科研究大会香川大会で「未来社会につなぐ社会認識の構築～授業力の継承、そして創造～」の研究主題を設定した。未来社会の課題について、ただ、内容を知っておくだけではなく、その課題をしっかりと認識し、より安全で誰もが幸福になれる社会をつくらうとする意思をもつ生徒を育成することが教育には求められている。子どもたちは、そのもととなる知識や技能、さらには思考力・判断力・表現力の育成が必要であり、そのために社会科の担う役割は大きい。そこで、社会認識を深める授業実践を継続的に行う必要があると考え、本研究主題は設定された。

しかし、「学習指導・授業づくり」の基本プロセスが身につけていても、単元の学習内容の構造化が十分にできなかつたり、指導技術が身につけていなかつたりした場合、社会科の目標に生徒の学力を到達させることはできない。そこで、日々の授業を通して、社会科の目標に生徒の学力を近づけることのできる力が教員に必要であると考え、教員の社会科における授業力を次のように定め、研究を進めた。

教員が社会科の授業を通して、生徒に社会的事象に関する知識や概念、技能を確実に習得させ、それを活用させることで、社会認識を深めさせることができる力

また、若手教員が大量に採用されている現状を鑑み、平成26年度の香川県中学校教育研究会社会科部会三観大会や平成28年度の香川県中学校教育研究会社会科部会丸亀大会と同様に、先輩の先生方が培ってきた研究成果を継承し、新たな創造へとつなげることなどによって、教員の授業力の向上を図ろうと副主題が設定された。

2 研究の概要

(1) 三部会から三分野へ

授業力の向上をめざして、平成29年度より研究部会の分け方を、それまでの「授業開発力」「授業構成力」「授業展開力」の三部会から三分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）での研究に発展的に改善し、これまでの三部会の視点を十分に生かしつつ、各分野における「深い学び」の実現を柱に研究を進めた。

(2) 研究体制づくり

小豆支部、さぬき・東かがわ支部は、地理上、東讃にあることから行政区分として一つに括られることが多い。しかし、人が行き来するとなると、交通手段が乏しく、両支部間の時間距離は長く、共同研究を進めるには、年に5回の香中社研究委員会と、ネットワークを使っての情報のやりとりしかない。そこで、本大会は、香中社の事務局員が全体提案を行い、研究委員会とネットワークを駆使し、「オール香川」で研究を進める体制とした。

(3) 分野別「基本カルテ」の改善

授業者が授業をつくる観点として、次の10点を意識することで、単元のまとまりを意識し、そして、生徒が「社会的な見方・考え方」を働かせる授業が可能になると考えた。

a 授業開発力から

- ① 中心概念
- ② 構造化
- ③ 教材の発掘・開発

b 授業構成力から

- ④ 学習課題の把握
- ⑤ 仮説の設定
- ⑥ 発見的検証
- ⑦ 概括・応用

c 授業展開力から

- ⑧ 教師の発言
- ⑨ 資料提示
- ⑩ 板書

(4) 「授業者カルテ」を用いた授業分析

「基本カルテ」を基に、授業者は授業に込められた単元の価値、1時間の流れ、生徒に対してどう支援していくのかということをもとに具体的に明記していくことで授業者の思いを紙面にまとめる。その具体化されたものを「授業者カルテ」と呼ぶ。社会科教育研究部会の研究システムは、R-PDCAサイクルを基本としているが、校内に社会科教員が1人という小規模校の実態があることも踏まえ、継続的に議論が深まり授業力の向上が図られる香中社研究委員会を有効に活用し、「授業者カルテ」をもとに、研究を進めた。

(5) 「改善カルテ」を用いた自己省察

授業を実施し、研究協議会で話し合われた内容を振り返るためのカルテを「改善カルテ」と呼ぶ。振り返りの目的は、授業者の授業の良さと課題、参観者にとっての今後の授業に生かすポイントの可視化である。

3 研究大会（誌上発表）の内容

(1) 基調提案

提案者：宮脇隆文 教諭（宇多津中）

(2) 分野別提案・研究授業

地理的分野部会

提案者：土佐準 教諭（さぬき南中）

授業者：陶山真固 教諭（豊島中）

題材：「中国・四国地方」（2年）



歴史的分野部会

提案者：井原みゆき 教諭（白鳥中）

授業者：爲藤慎也 教諭（土庄中）

題材：「社会の変化と幕府の対策」（2年）



公民的分野部会

提案者：村上誠一 教頭（大川中）

授業者：港貴康 教諭（小豆島中）

題材：「国民として国の政治を考えよう」（2年）



4 若年教員授業力向上研修について

実施日：11月5日（木） 附属坂出中学校

11月17日（火） 附属高松中学校

内容：13:30～14:00 受付

14:00～16:00 若年者による授業説明・授業討議

16:00～16:20 本研修の振り返り

5 成果と課題

(1) 成果

- 「授業力向上」のための「カルテ」作成
3種類のカルテを作成することで、持続的な授業力の向上が図れたと考える。
- 複数回の郡市を越えての授業実践と参観
小豆地区支部、さぬき・東かがわ支部と県研究部の教員が共同で研究を進めることで、理論を具体化した話し合いができた。

(2) 課題

小豆支部、さぬき・東かがわ支部、県研究部が共同して研究を進める中で、集まりたい時になかなか集まれず、コロナ禍の中で、研究授業を行って研究討議をすることもできなくなり、状況を確認したりコミュニケーションを取ったりすることが難しいこともあった。

数学的に考える資質・能力を育成する数学教育の展開

— 授業力向上をめざして —

数学教育研究部会

1 研究主題について

数学の知識を獲得するだけでなく、事象を数学的に捉え、考えることのできる生徒の育成を目標として主題を設定した。また、生徒の学力を確かなものにするために教員の授業力向上が欠かせないものであると考え、サブテーマを「授業力向上をめざして」とした。今年度は、新型コロナ感染拡大防止のため夏季研修会を行うことができなかった。しかし、感染症対策を行い工夫しながら若年研修会や各支部での研修会を実施することができた。支部ごとの研修会では、昨年度の研究成果と課題をふまえた研究テーマを設定し、授業改善を中心とした研究に取り組んだ。

2 研究の概要

(1) 各支部の取組

[高松] -ICTを活用した授業の工夫-電子黒板やタブレット端末等のICT機器を効果的に活用した授業づくりについての研究を進めた。

[丸亀] -主体的・対話的で深い学びを通し、学ぶ良さを実感できる生徒の育成-主体的・対話的に課題解決に取り組む過程を通して、その知識や技能が活かせることを実感できるような授業改善についての研究を進めた。

[坂出・綾歌] -データの活用における「批判的な考察」についての実践研究-「データの活用」領域における学習で自己の思考を振り返ったり、学び合いをしたりする中で、主張の根拠を批判的に考察できるような授業実践について研究を進めた。

[小豆] -表現力を育む学び合いの場の工夫-数学の有用性が実感できるように、身の回りの問題を扱うとともに、自分の考えを説明し合うことができるような授業形態を取り入れた授業実践の研究を進めた。

[さぬき・東かがわ] -話し合いの場を設けた授業の工夫-基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、授業で話し合いの場を意図的に活用することについての研究を進めた。

[仲多度・善通寺] 自分の考えをしっかりともち、ペアやグループ活動での学び合いを積極的に行うことで、表現力を高めながら数学的に考察する能力を育成することについて研究を進めた。

[三豊・観音寺]「生徒が主体的に取り組む授業づくり」-数学的活動の充実を目指して-課題解決のために粘り強く考え続ける生徒を育成するために、数学的活動の充実を目指した授業づくりについての研究を進めた。

(2) 若年研修会

12月に香川大学教育学部附属高松中学校で若年研修会が行われ、今年度に行われた3年生の相似な図形の単元での授業を録画視聴、研究討議を実施した。新型コロナ感染拡大防止のため、録画視聴という形となったが、見たい場面、聞き取りにくかった場面を繰り返し何度も再生することができたことやほとんど研修が中止になっていたのも、先生方と意見を交流することができたのでよかった等の声が聞かれた。その後、香川県教育センター主任指導主事の浅野正敏先生に講話をいただいた。視聴した授業と関連させながら、浅野先生のこれまでの取組を具体例を示しながら説明していただき、非常に示唆に富んだ内容であった。

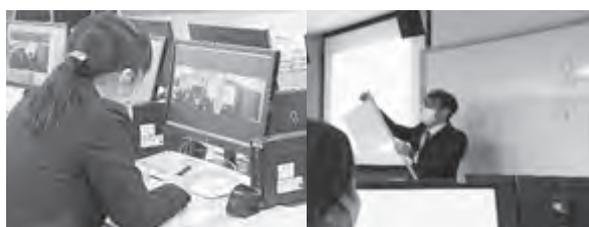


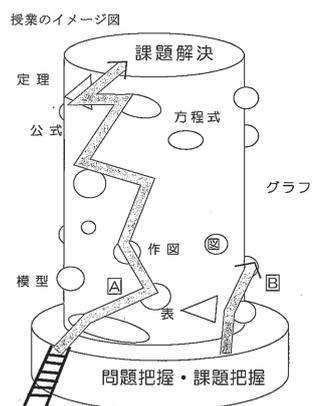
図1 研修の様子

(3) 研究大会

① 研究仮説

授業の中に、「見通し」や「振り返り」の時間を位置づけ、学習後に自分の学び方を客観的に把握し、認識しようとする態度を育てることで、生徒が主体的に学習に取り組めるようになる。

② 研究構想図（三豊・観音寺支部）



③ 研究内容

次の2点を授業に位置づけ、研究を行った。

- (i) 学習課題に対して、解決までの手順や考え方の見通しを書かせる。
- (ii) 見通しに対しての振り返りをさせる。

④ 授業の実際（豊中中）

■ 3年 関数 $y=ax^2$ 「関数 $y=ax^2$ の活用」

関数領域と図形領域を融合させた多種多様な解法が考えられる課題を扱った。授業では、個人の時間を十分に確保し、見通しをもたせた。



図2 自分の考えをを発表している様子

■ 2年 図形の性質と合同「星形五角形」

星形五角形の内角の和を求める題材を扱った。ヒントカードを活用し、生徒全員が取り組めるような工夫を行った。



図3 グループ活動の様子

■ 1年 平面図形「図形の移動」

陣取りゲームを実際に行い、操作活動から課題提示に繋げることで、生徒が見通しをもちやすいように工夫を行った。



図4 陣取りゲームをしている様子

3 成果と課題

課題設定や学習形態の工夫などを通して、数学的に考える資質・能力の育成の研究を進めてきた。県全体で行う研修や各支部の研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったものや縮小して行われたもの等があったが、先生方の工夫で教員の授業力の向上に繋がられるものとなった。数学的な資質・能力の育成を図っていくために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた課題の提示や振り返りの方法等授業改善を進めていくことが今後も必要である。先行きが見えない状態ではあるが、何ができるのかを常に考え、共有しながら、できることを継続していき、授業研究や若年教員研修の充実に努めていきたい。

音楽を通して人や社会と豊かなにつながる生徒の育成

— 「音楽的な見方・考え方」を働かせた学びの実現を目指して —

音楽教育研究部会

1 研究主題について

昨年度まで「つながる瞬間～伝え合い、感動を共有する音楽学習を目指して～」の研究主題のもと、生徒が音楽の美しさと出会う瞬間、生徒が他者との交流を通して音楽のよさを再発見する瞬間など、「つながる瞬間」の実現を目指した授業づくりに取り組んできた。昨年度の研究の成果を生かして、なかまと共有したことや新たに習得した知識を活用して、いかに学びを深めていくかという点や、生徒が学んだことや音楽との関わりを価値あるものとする点において研究を進めていきたいと考えた。そこで、「音楽的な見方・考え方」を働かせた学びを通して、生徒が音楽との関わりを価値あるものとし、他者との関わりの中で音楽をより深く味わう経験を積み重ねることで、その後の人生においても「生活や社会の中の音や音楽」との関わりをより豊かなものとしてほしいとの願いから本主題を設定した。

2 研究の概要（及び誌上発表の内容）

(1) 研究の視点

① 学習内容の焦点化

教材の選択にあたっては、子どもたちの発達段階やレディネスにあった教材であるか、「音楽を形づくっている要素」を知覚し、感受しやすい教材であるかどうかを十分に吟味する必要がある。生徒の実態に応じて、目標、学習活動との整合を図りながら題材を構築していく。

② 音楽に対する価値意識を構築する「比較」の取組

表現や鑑賞の学習の中で、いくつかの音楽を比較しながら学びを深めることで、既習の音楽と比較対象の音楽それぞれに価値意識を再考する場面が期待され、取り扱う複数の音楽や音楽文化に対して、それぞれの価値意識

を問いやすくなることにつながると考えられる。これには、「音楽を形づくっている要素」のうち、どの視点から音楽の構造を見るのか、捉えるべきもののためにどの「要素」から切り込むのかを明確にすることが不可欠である。また、生徒が「それぞれの音楽表現の共通性や固有性」を捉えることができ、指導のねらいを実現するのにふさわしいと考えられる比較対象教材を、生徒の実態に応じて精選することが重要である。

③ ICTを活用した学習・指導の工夫

タブレット端末やICレコーダーを活用することにより、自分の演奏をモニタリングするだけでなく、表現を工夫する過程での演奏や、他者の音楽表現と聴き比べるなどして、自分の演奏を客観的に振り返り、よりよい音楽表現につなげることが可能である。また、デジタル教科書やコンピュータの活用によって、音楽を聴きながら同時に楽譜を見るなど、聴覚のみならず、様々な感覚を関連付けて音楽の構造を捉えるといった学習がよりスムーズに展開できる。さらに、生徒が各々作品の部分聴取を繰り返すなどし、自ら思考錯誤しながら楽曲に向き合うような学習が実現できれば、生徒と音楽との関係性は確実に深まるものとする。

(2) 実践について

(高松市立古高松中学校 木村一裕教諭)

○ 題材名

我が国の伝統音楽や芸能から、多様な音楽のよさを味わおう

○ 教材

文楽「菅原伝授手習鑑」から三段目「桜丸切腹の段」、歌舞伎「菅原伝授手習鑑」から「賀の祝」

○ 題材の目標

・ 鑑賞に関わる知識を得たり生かした

りしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

- ・ 我が国の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。
- ・ 音楽の特徴とその特徴から生まれる多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。

○ 指導上の留意点

① 学習内容の焦点化

- ・ 太夫の語りの音遣いに注目して音楽を聴き取らせることで、わずかな表現の違いに気付かせ、知覚したことと感受したこととの関わりを考えながら鑑賞できるようにする。
- ・ 太夫の語りの模倣する活動を通して、義太夫節の語りの音遣いの特徴を聴き取らせ、そこで得たものを手がかりにしながら鑑賞できるようにする。
- ・ 太夫の語りだけでなく、太棹三味線がもたらす効果や太夫との関わり方についても考えさせることで、文楽がもっているよさや魅力に気付かせ、音楽の多様性に対する興味・関心を広げられるようにする。

② 音楽に対する価値意識を構築する「比較」の取組

- ・ 歌舞伎の音楽で用いられる「長唄」と文楽で用いられる「義太夫節」の比較鑑賞を行う。その際、人間の感情とその表現方法に焦点を当て、太夫の独特な声の出し方による表現の効果に気付かせたり、目的をもって音楽表現されていることを理解させたりすることで、固有性を見出しながら味わって鑑賞できるようにする。

③ ICTを活用した学習・指導の工夫

- ・ デジタル教科書を用いて説明することで、生徒が、聴覚だけでなく、様々な感覚を関連付けながら文楽の要素に

ついて学習を深められるようにする。

- ・ 太夫の語りを模倣する活動では、タブレット端末を用いて自分の表現を録音録画させ、自分の表現と太夫の表現を比較させることで、より音遣いの特徴を感じられるようにする。

○ 授業内容

本時は全4時間中の3時間目であり、目標を「音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさを味わって聴くことができる」と設定した。

授業では、まず、義太夫節と長唄の比較鑑賞から義太夫節の固有性を考え、本時の学習課題「文楽では、なぜ拍手が起こったのだろうか」を確認した。文楽特有の表現について考える際には、文楽の音楽が「人間の情」や「人間性」を表現していること、誇張ではなく一人で語り分け、演じ分けることによる自然なものとしての表出であることに気付かせることを大切にした。

(3) 若年研修

本年度の若年研修は、香川県教育センター教職員研修課 主任指導主事 藤原由宜先生による来年度実施の新しい学習評価についてのご講演と演習、香川大学教育学部 教授 岡田知也先生による教材研究の視点及びICT活用についてのご講演と演習を実施した。

3 成果と課題

研究大会は誌上発表となったが、事前の指導案検討や模擬授業を通して研究を深めることができた。研究主題の「音楽を通して人や社会と豊かにつながる生徒の育成」のためには、音や音楽によって「心が動く場面」を位置づけた学習活動が不可欠である。来年度は、学習指導要領完全実施の年となる。今年度の成果を大切にしながら、完全実施に向けて、県下で評価のあり方など、研修を積み重ねつつ、3つの視点を生かし、今後も研究を推進していきたい。

生活を美しく豊かにする美術の学び

～ 生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして ～

美術教育研究部会

1 研究主題について

美術部会では、研究主題を「生活を美しく豊かにする美術の学び～生徒の意欲を引き出す美術の授業づくりをめざして～」と設定し、思いを大切に、主体的に取り組む生徒、自ら考え自らを表現することの喜びを感受できる生徒の育成を図る。そのために、表現や鑑賞の幅広い造形活動を通して、創造する楽しさを味わわせ、自分らしい見方や感じ方を尊重させ、美術を愛好する心を育てたい。美術の学びが、豊かな感性を育み、よりよい生活を創造していくことにつながると考え、授業改善を中心とした研究に取り組んだ。

研究の重点課題は次の3点である。

- (1) 生活と美術をつなぐ教材の開発
- (2) 創造的な発想・構想力を身に付けさせる指導の工夫
- (3) 形成的評価を生かした指導の工夫

2 研究の概要

(及び大会内容・誌上発表の内容)

- (1) 令和2年度県研究大会（誌上発表）
さぬき・東かがわ支部提案・大会テーマ
「生活を美しく豊かにする美術の学び—気付く力・考える力・伝える力、そして創造へ—」
〔提案授業〕
題 材 オリジナル擬態語図鑑（2年）
授業者 西原 直哉（大川中）

① 大会テーマについて

新学習指導要領の改訂では、教科の目標に「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成をする」と明記され、生活を美しく豊かにする美術の働きを実感させるような学習活動が求められている。

さぬき・東かがわ支部では、県美術部会テ

マを受けて、生徒の意欲を引き出す指導の工夫を模索してきた。生徒一人ひとりが主体的に美術の学習活動に取り組むことを目指し、「気付く」から「考える」過程を経て、「伝える」相手の視点を持ち、幅広い視点で表現する「創造」へとつなげることが、より豊かな学びになると考え、サブテーマを「生徒の意欲を引き出す指導の工夫」から「気付く力・考える力・伝える力、そして創造へ」と再設定した。

○気付く力…表現の意図や工夫、造形的なよさや美しさを感じ取る感性、生活の中にある美術や美術文化の働きに気付く力、見方や考え方を広げる力

○考える力…主題を生み出す力、造形要素を組み合わせる力、表現方法を創意工夫して発想・構想する力、試行錯誤し考える力、見通しをもつ力

○伝える力…言語や作品を通して、主題や感じ取ったよさを表現し伝える力

② 研究内容及び方法

大会テーマの実現のために、美術が苦手な生徒でも取り組みやすい教材や指導法を模索した。生徒が美術を身近に感じ、気軽に生活に取り入れて楽しめるよう見方や感じ方を深められるよう以下の観点で研究を進めた。

ア 生徒の学ぶ意欲を高める題材の開発

イ 「学び合い活動」を充実させるための場面設定

③ 研究実践

ア 生徒の学ぶ意欲を高める題材の開発

【実践事例1】

題材「マイロゴマークでマイ幟をつくろう」

（第2学年）

【実践事例2】

題材「オリジナル擬態語図鑑」(第2学年)
「学び合い活動」を充実させるための場面
設定

【実践事例3】

題材「屏風絵を味わおう—光琳と琳派—」
(第2学年)

(2) 若年研修会

11月5日(木) 附属坂出中学校

授業改善研修 「表現と鑑賞の一体化と問い」

若年教員の中では、鑑賞の授業や表現と鑑賞を関連させた単元構成への苦手意識あるいは興味関心があることが、去年度若年研修でのアンケートによって明らかになった。そこで、今年度若年研修では、表現と鑑賞の関連、それらをつなぐ問いというテーマで授業力向上研修を行った。

① 「問い」とは? ~なぜ問いが必要なのか・
問いによって生徒はどう変わるのか~

文献をもとに、問いのもつ性質、効果を学習した。

② 授業づくり研修

教科書をもとに、「表現と鑑賞の一体化」が
図られた授業の単元構成、そこで設定する問い
を考えた

③ 授業プラン検討

参加者で持ち寄った実践事例をもとに、グ
ループで授業改善を行った。そこでの視点は以
下の通りである。

ア 表現と鑑賞の一体化が図られているか
イ 生徒の対話を深めるような問いを設定して
いるか

3 成果と課題

(1) 成果

実践事例研究では、既習事項と簡単にでき
る技法を組み合わせ、発展的に取り組める題
材を開発し、鑑賞や表現をサイクル化させて
いく1つの形を提案できた。また、導入や制
作のヒントとしてクイズ・ゲーム感覚の発想

トレーニングを取り入れ、生徒の意欲を引き
出すことができた。休み時間になると、学級
を超えて生徒が集まって鑑賞し、コミュニ
ケーションを生むツールとなった。

「学び合い活動」を充実させるための場面
設定として、鑑賞の実践では、クラス全体の
対話型鑑賞、模型を使ったグループ鑑賞など
を設定した。具体的な場面設定を行ったこと
で活発な話し合いが行えた。発想・構想の行
き詰まりや制作時の失敗があった時、生徒の
話し合いや教え合いの場を即座に取り入れる
ことが、他者の考え方に触れたり技法や表現
の幅を広げたりする場になった。

研究を進めるに当たって、支部の教員が案を
持ち寄って何度も検討し共同研究を進められた
ことも今大会の大きな成果だった。

(2) 課題

表現と鑑賞の関連をどのように図っていく
かにポイントを絞り、研修を重ねていく必要
がある。「学び合う」相互鑑賞は、表現と鑑
賞で学ぶ内容が異なるので、その目的に応じ
て話し合いの形態や設定、どのタイミングで
行うかなど吟味が必要である。ただの話し合
いにならぬよう教師は学びのねらいをもち
「何を話し合うのか」「なぜ話し合うのか」
「何を学ぶのか」、学びの視点や方法を具体化
し、ペア・小グループ・全体など、どのよう
な設定が有効か検証を重ねていきたい。

次年度からは新学習指導要領の完全実施と
なる。現行の4観点から3観点による評価に
どのように移行するのか、今年度は本部会研
究部でも実践事例を集めるなど、研究を進め
ている。

また、授業は、つけたい力が明確であって
こそ評価方法や基準が明確化することを踏ま
え、授業づくりにおけるつけたい力の明確化
に関する研究にも取り組む必要がある。今年
度県大会でも提案されたように、どのよう
な力を子どもにつけたいのか、どのよう
な子どもの姿を実現させたいのか、今後も研究を進
めていきたい。

社会の変化に主体的に対応し、よりよい生活を工夫する技術・家庭科教育

— 問題解決的な学習の質を高める指導法の工夫と評価のあり方 —

技術・家庭科教育研究部会

1 研究主題について

平成29年3月に学習指導要領が改訂され、全面実施目前となった。今回の改訂では、育成を目指す資質・能力が明確化され、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が三つの柱として示された。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善やカリキュラム・マネジメントの推進等も示された。技術・家庭科の目標も改善され、教科特有の見方・考え方を働かせて、生活を工夫し創造する資質・能力の育成につなげることが求められていることは言うまでもない。評価についても、4観点から3観点到整理され、評価のあり方や方法についても今後の課題である。そこで、研究主題を『社会の変化に主体的に対応し、よりよい生活を工夫する技術・家庭科教育』一問題解決的な学習の質を高める指導法の工夫と評価のあり方—として研究を進めることとした。

・今回の研究内容

これまでの研究を継続しながら、問題解決的な学習の質を高めるために指導法を工夫し学習ユニットの強化を図ったり、評価の仕方や時期を工夫したりすることとした。

特に、評価については、国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料「中学校編 技術・家庭科」、「学習評価の在り方ハンドブック」を参考に、以下のような手順で新しい評価について研究を進めることとした。

① 題材の検討

学習指導要領や解説を参考に生徒の発達段階に応じて、各題材の履修学年・授業時数を定める。内容まとまりとして、どの項

目を指導するか考える。

② 題材の目標の設定

分野の目標や題材で指導する指導事項を整理・統合したうえで、履修学年や授業時数を踏まえて設定する。

③ 題材の評価規準の設定

分野の評価の観点の趣旨をもとに「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に設定する。

④ 内容のまとまりごとの評価規準の作成

題材の評価規準をもとに、内容のまとまりごとの評価規準を作成する。

⑤ 題材の評価規準の具体化

適切な時点で適切な評価をするために、題材の評価規準を学習活動に即して具体化する。

作成した評価規準をもとに評価方法や時期の検討や実践を行うこととした。

2 研究の概要

(及び大会内容・誌上発表の内容)

(1) 問題解決的な学習の質を高めるための指導法の工夫と評価のあり方の検討

問題解決的な学習の質を高めるための指導法の工夫と評価のあり方について、事務局が示した研究の流れや手順に沿って、各郡市が評価規準の作成や実践事例を様式にまとめ、県全体で評価についての研究成果をまとめる取り組みを行った。

(2) 誌上発表による研究大会や各地区での研修会の実施

【研究大会（紙上発表）】

香川県全体の研究内容から始まり、坂出綾歌地区の教員による研究内容、指導案、年間指導計画、ワークシートなどの参考資料、指

導者による指導内容などを紙面上で発表し、今後の研究テーマや指導技術の向上についての研究提案を行った。

各分野の内容と実践については以下の通りである。

・技術分野の研究内容と実践

- (1) 内容A「材料と加工の技術」の評価規準の作成
- (2) 評価方法の例
- (3) 学習評価のための学習カード（個人カルテ）の例
- (4) 評価・評定の算出について

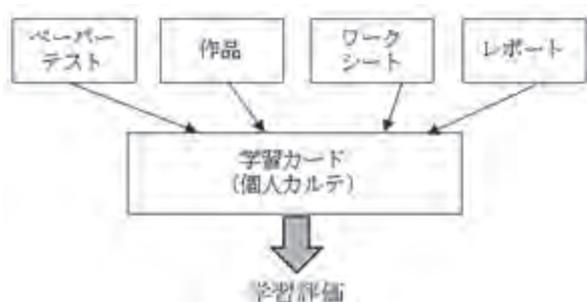


図1 学習カードのイメージ

・家庭分野の研究内容と実践

- (1) 学習指導計画の工夫
- (2) 問題解決的な学習の充実
- (3) 継続した学習にするための工夫

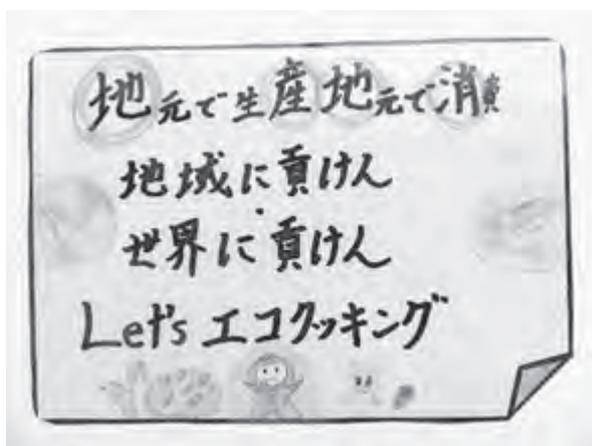


図2 家族へのメッセージカード

・指導者による指導

坂出市教育委員会国木指導主事や香川県教育センター芳我指導主事から、本研究内容に

ついでに指導・助言をいただいた。

・指導者 坂出市教育委員会

指導主事 国木 良輝 先生

香川県教育センター

指導主事 芳我 清加 先生

【研修会】

本年度の機関誌「技術・家庭科教育」に掲載する研究成果のまとめのために、各地区において校内での研究授業の報告や、評価についての実践資料などを持ち寄り、今後の県全体の研究につながるよう、研究討議や質疑応答を行った。

【若年研修】

附属中学校での実践や参加者の各中学校での実践や課題を報告し合ったり、模擬授業や研究討議などを行ったりして若年教員の授業力向上に努めた。



若年研修における教材研究の様子

3 成果と課題

新型コロナウイルスによる学校現場への影響や新学習指導要領移行期間ということもあり、目まぐるしい変化の中での研究となったが、研究を進めたことで、学習指導要領を読み解き、共通理解を図りながら各地区や県全体で研究が進んでいったと感じている。

特に、評価については、国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料「中学校編 技術・家庭科」、「学習評価の在り方ハンドブック」を参考に、今後も新しい評価について研究を進めていきたい。また、問題解決的な学習についても、今後も研究の柱として取扱い、学習の質を高める実践を積み上げていきたい。令和3年度の完全実施に向けて実践研究を継続するとともに、研究を深化させていきたい。

養護教諭の専門性の深化をめざして

— 時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる —

養護研究部会

1 研究主題について

社会の急速な変化により、生徒を取り巻く生活環境は複雑化・多様化し、健康課題はますます深刻化している。これらを解決するため、保健室の機能や養護教諭の職務に関心が注がれ、期待が寄せられている。

このように時代の中で変化する立場や環境をよりよいものとしていくには、養護教諭の専門性を深め、拡大することにより、他の専門職には代えられない役割を担い、自らの職に誇りをもって実践することである。そのため、広い視野で柔軟に協働するための豊かな感性を磨き、本質を捉える高い専門性を身に付けることが必要である。

しかし、昨今の養護教諭の若年化や校種間異動による経験不足からくる戸惑いは、生徒への対応に揺らぎが生じる原因となりやすい。この状況を打破するために、養護部会では、平成30年度から本研究主題とサブテーマを設定し、日頃の実践の中で身に付けてきた経験を他の養護教諭と共有して、自信をもって仕事に向き合えるための研究を推進してきた。

2 研究の概要及び大会内容（誌上発表）

(1) 研究の概要

各支部が、研究テーマを受けて、今養護教諭に必要とされている専門職としての力を高める研修に取り組んだ。

- ① 高松支部－働き方を見直し、コーディネート力を生かした協働を考える－
- ② 坂出・綾歌支部－時代の変化に対応した養護実践を求めて－
- ③ 丸亀支部－時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる－
- ④ 仲多度・善通寺支部－時代の変化に対応した養護教諭の役割をさぐる－
- ⑤ 三豊・観音寺支部－現代的な健康課題に

対応した養護実践の構築－

- ⑥ さぬき・東かがわ支部－多様化する健康課題に対応した養護教諭の実践力の向上－
- ⑦ 小豆支部－時代の変化に応じた養護教諭の専門性をさぐる－

(2) 研究大会（誌上発表）

① 研究の目的

「生徒の心と体、健康の保持増進」、「養護教諭の執務の伝承とスキルアップ」、「教職員の健康管理とメンタルヘルス」の3領域について実践を積み上げていくことで、養護教諭の「専門性の深化」を図る。

② 具体的研究内容

<生徒の心と体、健康の保持増進>

ア 研究のねらい

内科的理由で保健室を利用する生徒の中には、生活習慣の乱れが原因と思われる場合が多くみられる。就寝前に情報機器を使用して就寝時刻が遅くなり、翌日体調不良を訴える原因となっていることも少なくない。そこで、基本的生活習慣の中でも、特に睡眠について、心の健康も含めて改善できるような積極的で効果的な健康教育を行う。

イ 具体的な研究実践

- 専門家を招いての研修
- 市内生徒へ睡眠と疲れのアンケート
- 自律神経機能の測定と睡眠・覚醒リズム解析の実施
- 大川尚子教授による生徒への授業
- 「睡眠リーフレット」の作成
- 養護教諭による睡眠指導の実施

<養護教諭の執務の伝承とスキルアップ>

ア 研究のねらい

養護教諭は一人配置が多く、職務内容は校種、学校の規模により大きく異なる。職務を遂行するための様々な能力が必要とされるが、急速な世代交代により養護教諭同士の実践交流や、経験で培った対応力などを継承する機会が減少している。

そこで、養護教諭に特化した学びや実践の機会を設けることで、養護教諭の専門性を深め、広げていくために必要な力を養っていく。

イ 具体的な研究実践

- 専門家を招いての研修
- 大会救護のサポートとなる資料収集
- 養護教諭間の情報交換（持参物品）
- 校内救急体制の見直し

<教職員の健康管理とメンタルヘルス>

ア 研究のねらい

健康課題には、教育活動全体を通し、全教職員が連携する必要がある、生徒へ関わる立場の教職員が心身共に健康でなければ、十分な教育効果が期待できない。

しかし、教職員は業務量の増加や業務の質の困難さ、学校規模などが原因で、メンタルヘルスの不調を訴える割合が増えている。教職員からの健康相談に応じている実態や、衛生管理者または衛生推進者として養護教諭が校内のメンタルヘルスケア推進の担い手となっていることから、教職員への健康管理も考えていく。

イ 具体的な研究実践

- 専門家を招いての研修
- 衛生委員会の開催
- 衛生委員会だよりの作成

3 成果と課題

大川教授からアンケートや機器を用いて睡眠や疲労という不可視なことを可視化する方法があることを教わったり、アンケートを実施するだけでは改善されないため、事前の介入（養護教諭等による健康教育）が必要だと助言をいた

だいたりした。これらを考慮して取組を重ねることで、早く寝ようとする意識や、スマホやゲームの使用時間に改善傾向がみられた。

睡眠の大切さについて考え、生活習慣を見直すきっかけとなる「睡眠リーフレット」を作成した。自分の実態を把握することができる睡眠チェックを取り入れたことで、簡単に判定でき、わかりやすいものとなった。また、香川県学習状況調査結果のうち、携帯、スマホ利用と平均正答率のデータも加え、学力と睡眠のバランスについても考えることができる教材となった。

市内同時期で養護教諭が中心となり、「睡眠リーフレット」を使った指導や効果を継続させるために、期間をあけて再度指導することを当初計画していたが、コロナ渦の中、予定通りできなかった。これからの情勢と各校の状況をみながら、来年度以降も継続した指導を行いたい。

県大会、四国大会の会場ごとの救護設備（AED、担架、車いす、製氷機、冷蔵庫の有無と設置場所）と救護役員待機場所などの記録を養護部会の会員の方々に協力いただき収集した。持参したら便利なものや駐車場、服装などについての情報も一覧にまとめたことで、安心して対応できる材料になった。

中体連役員に配布されている資料で養護教諭に関する内容をまとめたものとともに、香中研のHPにアップして、情報を提供していきたい。

研修をきっかけに、衛生管理者や衛生推進者として具体的な対策を実施できるようになった。

組織的に対応できる校内の健康管理担当者として、研修の機会は積極的に取り入れたい。

個々の養護教諭が創意工夫して、専門職としての知識やスキルを身に付ける養護実践を重ね、中核的な役割を発揮し、コーディネーターとしての連携・協働を大切にしながら、今後も時代の変化に対応した専門性の深化をめざしたい。

生きてはたらく確かな言葉の力を育む国語教室の創造

— 言語を介して能動的に他とかかわる力を育てる国語授業の在り方 —

国語教育研究部会

1 研究主題について

昨年度高松市立古高松中学校で開催された第29回四国国語教育研究大会・中学校部会（香川大会）兼第31回香川県中学校教育研究会国語部会研究大会での研究成果や課題を踏まえ、各郡市と連携して共通テーマで研究を進めていくこととし、本主題を昨年度から継続し設定した。

2 研究の概要

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、夏季研修会をはじめ様々な研修活動が中止となった。しかし、VTRを用いた授業研究会や、新学習指導要領の実施に向けた研修会等が各支部や若年研修部会において開催され県下国語科教員が研鑽を深める場となった。

(1) 研究委員会

高松支部での研究を引き継ぎ、三観支部を核に研究の方向性と具体的な授業について検討を重ねた。

(2) 夏季研修会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) 若年研究部会

令和2年12月3日（木）、香川県教育センターにおいて2～4経教員を対象とした若年研修会を開催した。

①公開授業（VTRによる）

授業者：田村 恭子（附属坂出中）

題材：「オツベルと象」（宮沢賢治）

②授業討議会

経験年数の異なる教員で小グループを編成し、授業討議を行った。

③指導・助言

指導者 香川大学教育学部 教授

佐藤 明宏 先生

公開授業についての指導、また豊かな教材研究の必要性や魅力的な国語科授業の

在り方など、幅広い視点からご指導をいただいた。今後、国語科教員として、授業や作品に向かう姿勢を改めて考えることができた。



授業討議や、指導・助言の様子

(4) 各支部における教科研修会

今年度、各支部における教科研修会は規模の縮小を余儀なくされたが、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する演習（さぬき・東かがわ支部）やオンラインによる次年度採択教科書の特色についての講話（高松支部）など、それぞれ工夫を凝らした研修会が開催された。VTRなどによる授業研究会も開催され、それぞれの支部が研鑽を深めるとともに、今後の研究の在り方について共有する場となった。

3 成果と課題

「主体的・対話的で深い学び」を核として、生徒が意欲をもって学習に取り組み、言葉の力を身に付けるための国語科学習指導をどう行っていくかについて、昨年度に引き続き研修が深められた。夏季研修が中止となり、全体で集まる機会はなかったものの各支部において現状を踏まえた上で、今後の授業の方向性を国語科教員で共有できたのではないかと考える。今期の実践をここでとどめるのではなく来年度、そしてさらに令和5年度に行われる全国大会（三観支部）への基盤とし、今後も質の高い研修と研究を進め、県全体の授業改善と指導力の向上を図っていきたい。

理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育み、豊かな未来を切り拓く理科教育

理科教育研究部会

1 研究主題について

時代の変化に伴い、現代の学校教育には、子どもたちが様々な変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることなどが求められている。また、国際調査において、日本の生徒の、理科が「役に立つ」、「楽しい」との回答が国際平均より低く、「結果を分析した上で、解釈・考察し、説明すること」などに課題が見られることが明らかになっている。

このような状況を受け、文部科学省から告示された新学習指導要領では、資質・能力を育成するために、「見方・考え方」を働かせることや「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進していくことが求められている。

理科においては、課題の発見、追究、解決といった探究の過程を通じた学習活動を行うことが重要であり、それぞれの過程において、どのような「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付けることをめざすのかを明確にし、指導の改善を図ることが必要である。このような改善を行うことにより、生徒は理科の面白さや有用性を実感することができる。そして、そのような実感をとまなう学びを積み重ねることが、未来を切り拓く力の育成につながると考える。

これらのことを踏まえて、上記の研究主題のもと、さらに研究を推進していくこととした。

2 研究の概要

◆若年研修会

期 日 令和2年11月30日（月）

場 所 香川大学教育学部附属高松中学校

授業者 萱野 大樹

单元名 「物質のすがたとその変化」

内 容 リモートでの授業参観、研究討議、指導案交流会、教材紹介等



授業参観、研究討議では、主体的な学びを生み出すための問いや対話を促すための導入や発問などについて、授業での具体的な姿をもとに研修を深めることができた。指導案交流会では、持ち寄った指導案をもとに、主体的・対話的で深い学びのある授業にするためには、どのような手立てが必要になるのかを話し合い、今後の授業づくりの参考にすることができた。

◆次期研究大会（R5）への各郡市の研究領域

今年度より令和5年度高松大会（県大会）に向けて、研究領域を全国中学校理科教育研究会に合わせ、新たな4領域（教育課程、学習・評価、観察・実験、環境教育）で研究を進めた。各郡市の研究領域は以下のとおりである。

	小豆	さ東	高松	綾坂	丸亀	仲善	三観
教育課程			○	○			
学習・評価			○				○
観察・実験		○	○		○		
環境教育	○		○			○	

3 成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定されていた夏季研修会や秋季研修会などが中止となり、県全体で研究を推し進めていくことが難しかった。その反面、各郡市で自分たちの研究を見直し、これからの研究の方向性を整理する機会にもなった。また、若年研修会を初めてリモートで開催することとなり、新たな研修の持ち方を模索することもできた。

来年度は、今年度培ったノウハウを活用し、令和5年度に向けた研究を進めていきたい。

グローバル社会に求められる英語教育のあり方

～ 主体的・対話的で深い学びを実現する英語の授業を旨として ～

英語教育研究部会

1 研究主題について

英語部会では、これまでの研究を土台とし、新学習指導要領に示された新しい時代に求められている資質・能力の育成を旨とした英語教育のあり方について研究を行ってきた。

具体的には、昨年度に引き続き、次の3つの内容を柱として研究を進めた。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を旨とした授業改善
- (2) CAN-DOリストの効果的な活用
- (3) 小学校英語とのつながりを意識した言語活動の工夫

生徒が英語を用いて主体的に活動するために、目的・場面・状況を明確にして実際のコミュニケーションの場面に近い言語活動を設定したり、CAN-DOリストを活用して指導・評価方法の工夫や改善を図ったりした。また、現在行っている小中連携を生かし、中学校の授業で、小学校で学んだ言語材料の定着を図る言語活動を設定するなど、小・中の接続がスムーズになるよう工夫した。

2 研究の概要

(1) 若年研修会

12月4日（金）、香川県教育センターにおいて2経～5経の若年教員を対象とした若年研修会を開催した。本年度の若年研修会は、県内の中学校英語担当教員を対象とした「英語指導スキルアップ研修」と兼ねており、若年教員を含む県内英語科教員等約80名が参加した。

講師として、関西大学大学院外国語教育学研究科 教授 田尻悟郎先生をお招きし、「英語教育の目的」という題目でご講話をいただいた。まず、世界情勢と言語教育の関係性について、英語教師が国際社会で今何が起きているのかを知った上で授業を行うことの重要性についてお話しいただいた。さら

に、中学校の英語授業を通して身に付けるべき力や授業の作り方など、具体的な授業実践についても教えていただいた。ご講話の中で、先生から参加者へ問いが投げかけられ、参加者同士が意見を交換する場面も多く設けられた。授業作りについては、文構造の理解を促すアクティビティなども紹介していただき、実際に活動を体験して、その有用性を実感することができた。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、春季大会、夏季研修会ともに中止を余儀なくされたため、大変貴重な研修の機会となった。英語教師の役割や使命から授業実践の具体に至るまで、田尻先生の多くの実践に学ぶ大変有意義な研修であった。



田尻先生によるご講演

3 成果と課題

昨年度に引き続き、新学習指導要領に沿った研究テーマのもと、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業実践に取り組んできた。

本年度は、研修の機会が少なく、他校または異校種間での意見交流の場が非常に少なかった。若年研修会のアンケートからも「3時間はとても短く、もっと研修の時間が必要」というご意見をいただいたので、アンケート結果を参考にしながら、研修会の実施方法の工夫や研修内容の一層の充実を旨としていきたい。

豊かな心を育て、ともに未来を切り拓く道徳教育

道徳教育研究部会

1 研究主題について

常に目まぐるしく変化し続ける社会情勢の中で、現代の子供たちが乗り越えなければならない課題が新たに発生している。新しい生活様式を取り入れての学校生活やSNSをはじめとするインターネットの安全な利用、自然災害への予防と対策などの課題は、自信の欠如や将来への不安といった子供たちの心の成長に大きな影響を与える。

香川県の道徳教育では、前述したような課題を念頭に置きつつ、平成10年の学習指導要領改訂から加わった「豊かな心」と「未来を切り拓く」という言葉を普遍的なものとして大切にし、本主題を設定している。これからの道徳教育では、子供たちが夢や希望を持って、他者と協働し未来を切り拓き、人としてよりよく生きようとする力が育成されるよう、一層の充実が求められている。

2 研究の概要

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、県規模での研究大会や公開授業は開催されなかった。そのため今回は、令和4年度に県大会の開催校となっている善通寺市立西中学校の取組の概要を記載する。

(1) 善通寺市立西中学校の研究内容

① 道徳教育の充実を促す指導體制

道徳教育推進教師を要として、教職員がチームとして取り組める体制づくりを行うため、道徳部会の中に、授業や評価のあり方を討議する「教材プロジェクト」、道徳通信の発行を通じて保護者や地域とつながる「連携プロジェクト」、生徒の心に訴える掲示を担当する「環境プロジェクト」の3つのプロジェクトを設定している。

② 「考え、議論する道徳」の授業と評価

善西中では、ローテーション道徳を取り入れて授業を行っている。メリットとして、十分な授業準備ができること、同一教材の積み重ねにより教材研究が深まること、そして、生徒は様々な教師の授業を受けることができるということが考えられる。また、ローテーション道徳を行うことで、担任に限らず全教

員が教材研究を進めることができている。様々な教員が多面的に生徒を評価したり、担任がT2の役割で授業に入ることで、じっくりと生徒の見取りができたりするなど、評価の面でもメリットがある。

また、評価にあたって、各学期末に生徒自身による道徳の振り返りを行っている。生徒が、特に印象に残った授業やその授業で感じたことをまとめることで、「いろいろな立場から考えようとする姿」や「自分との関わりの中で考えようとする姿」などを見い出して評価することに繋がっている。

③ 保護者・地域との連携

授業の実践や道徳教育の概要をまとめた道徳通信「くすのき」を月1回程度発行している。保護者向けのアンケートも記載し、道徳教育に関心を持ってもらえるよう工夫している。学区内の公民館などにも配布し、地域との連携を図っている。

④ 全校・学年一斉道徳

(2) 郡市教科等研究員 公開授業

期 日 令和2年10月28日(水)

場 所 善通寺市立西中学校

授業者 教諭 糸瀬元陽

教材名 人間の命とは

一人間の命の尊さ・大切さを考える—

[D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること]

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、授業を映像に記録し、郡市内の学校に配布した。各校で視聴し、改善点や指導の充実について討議を行った。

3 成果と課題

今年度は大きな大会はなかったものの、授業内容の検討や教材研究に時間を費やすことができたことが成果であった。善通寺市立西中学校としては、今後も地道な道徳教育の実践を積み重ね、さらに多くの方の声を聞き、協力を得ながら、学校・保護者・地域が三位一体となって、道徳教育の充実を図っていききたい。

未来を見つめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成

特別活動研究部会

1 研究主題について

今回の学習指導要領の改訂では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で目標が再整理され、特別活動においても、これまでの目標、内容の示し方が大きく変化している。しかし、基本的な考え方は今回の改訂においても継承されている。特別活動における、「何ができるようになるか」については、①社会参画、②人間関係形成、③自己実現という三つのキーワードをもとに、育成を目指す資質・能力がまとめられた。

具体的には、「合意形成」「意志決定」を含む学習過程が学習指導要領に明示されたことにより、生徒が集団をまとめる方法を身につけ、集団活動の価値を見いだしたり、他者を尊重し、認め合いながら協働する方策を探ったりすることや、特別活動を学校教育全体、また小学校から高等学校までを通じて行う「キャリア教育」を要として行うものと考え、体験した学びを、キャリアパスポートを活用し、今後の自己の態度や将来の目標に向けての自己実現に反映させることを目指している。そこで、本部会では、上記のような研究主題を掲げ、研究を進めることとした。

2 研究の概要

本年度は新型コロナウイルス感染防止のため、夏季研修会は中止となり、各支部での研修が主となった。ここでは、三観支部の理事・主任研修会を例にとりあげる。三観支部の研究内容は以下の通りである。

- ・ 「合意形成」「意志決定」を含む学習過程の実践
- ・ キャリアパスポートを活用し、各教科・道徳科及び総合的な学習の時間との連携を意識した特別活動の工夫

- ・ 人間関係形成、社会参画、自己実現に視点をあてた特別活動

これらに関する取組について、それぞれ意見交流を行った。以下に、二つの中学校の取組を紹介する。

(1) 三豊市立仁尾中学校の取組

環境委員会で、運動場の雑草や植え込みが広範囲で茂っていたり、落ち葉が散っていたりしている現状を打開しようと話し合い、毎週水曜日をボランティアデイとして朝の20分間で清掃活動を行うことにした。清掃用具や軍手、袋なども生徒が必要なものを話し合いの上で決定し、持参するように呼びかけることによって、友達とコミュニケーションを取りながら、効率よく活動ができた。

(2) 観音寺市立観音寺中学校の取組

生徒会、各学年リーダーズが中心となり、新しい行事「観中祭2020」を10月末に開催した。教員が前に立つことはなく、企画・運営のほぼすべてを生徒が考え、実践した。生徒の有志で集まる「校歌うたい隊」では、リーダーが考えた「観中生の主張」を行い、今年活動できなかった思いを叫んだ。その様子を最前列で1、2年生に観戦させたところ、終了後の感想に、8割以上の生徒から3年生に対する憧れを記した意見が集まった。

3 成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、様々な制限が設けられ、多くの行事や体験活動が中止または縮小となり、例年のような取組や研究ができていない。しかし、このようなときだからこそ、今後も各校で工夫し、学校全体でキャリア教育を実践し、生徒が自己の生き方について深く考えることができるような取組について、研究を深めていきたい。

「自己指導能力を育てる生徒指導のあり方」

～ 対話による共感的人間関係に支えられた集団作りを目指して ～

生徒指導研究部会

1 研究主題について

新中学校学習指導要領第1章総則（第4 生徒の発達の支援1（2））より「自己実現を図るため」に「自己指導能力の育成」が不可欠である。「自己指導能力の育成」には、「自己決定の場を与える」、「自己存在感を与える」、「共感的人間関係を育てる」という生徒指導三つの機能を教育活動の中に取り入れ、生徒の育成にあたらなければならない。

学校教育は集団での活動を行えることが大きな特徴であり、「共感的人間関係を育成する」ことが特に可能となる。お互いを尊重しあう態度が身に付くことにより、生徒が安心して自分の意見が発言できたり、相手の考えを最後まで聞いて自分の考えを深めたりすることができ、好ましい人間関係につながり、豊かな集団生活を送ることにつながると考える。そのような集団の中で生徒が活動することで、残りの二つの機能についても、各学校の実態に合わせて育成のための取組を行うことで効果が期待できると考え研究を進めた。

2 夏季研修会

新型コロナウイルス感染防止のため、今年は夏季研修会を中止。本来はさぬき・東かがわ支部、坂出・綾歌支部、高松支部北ブロックの代表校による実践発表の内容を紙面で発表することとなった。

①さぬき・東かがわ支部

さぬき市立さぬき南中学校

「チャレンジ精神や相互に尊敬する気持ちを育てる生徒指導～小規模校ならではの行事を活かした取組～」

生徒が本気で取り組み、憧れや挑戦心、尊敬する心を高めるような仕掛けをすることで、自尊感情や自己肯定感の向上が図れると考え、次

のような取組を行った。

- (1) ソーランコンテスト
- (2) 校内弁論大会
- (3) 全校一斉漢字テスト

②坂出・綾歌支部

「チームの力で取り組む生徒指導の推進」

テーマに迫るために他校の現状や工夫ある取組を参考にして、以後の自校の取組のヒントにした。また、社会情勢を踏まえ、中学生の情報機器取り扱いの危険回避のために、講師の専門的な講演で学んだりして研究を進めた。

6月 講演「SNSに起因した犯罪の現状と対策」（高松西警察署生活安全課）

10月 講演「子どもを取り巻くネットトラブルの現状と危険や対策」（さぬきっ子安全安心ネット指導員）

③高松支部 北ブロック

高松市立玉藻中学校

「対話による共感的人間関係に支えられた集団作りを目指して」

生徒だけでなく家庭全体を支援するための取組として、SCやSSWを核として、関係機関と積極的に連携をとりながら生徒指導を実践している。必要に応じて外部から人材を招いて行うケース会では支援の幅が広がっている。幼稚園、保育所、小学校と連携し兄弟関係の情報や家庭の状況についても把握しやすくなった。

3 成果と課題

生徒の「自己指導能力の育成」に向けた取り組み方について、県内の実践を知ることで各学校の状況に合った具体的な生徒理解の方法や発達段階に合わせた取り組み方など、今後の生徒指導につながる多様な考え方を深めると同時に今後の課題となった。

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成

～ 主体的・対話的で深い学びを支えるメディア教育の推進 ～

メディア教育研究部会

1 研究主題について

中学校の新学習指導要領が2021年度より全面实施となり、そのポイントとして「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、「資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するため、(略)教材・教具や学習のツールの一つとしてICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要」とされた。そこでGIGAスクール構想の「児童生徒1人1台端末」の整備が2023年度を目標として進められたが、新型コロナウイルス感染症等による臨時休業措置により、その整備が前倒しにされ、2020年度中にはほとんどの学校で整備されることとなった。環境の整備は整ったが、配布された端末を「どう使うか」については各自治体・学校に任されており、新学習指導要領を踏まえつつ、ICTでどのように使えば授業改善につなげるかといった研究を更に推し進める必要があると考えている。

2 研究の概要

- (1) 役員研修会 令和3年2月理事会
- (2) NHK杯全国中学校放送コンテスト中止
- (3) 夏季研修会 中止

3 今年度の取り組み

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でほぼ全ての研修会が中止となり、研究については各郡市及び各学校での研究となったため、各郡市の成果を抜粋した。

(1) 高松地区

屋島中学校で令和4年度にメディア研究大会が行われる予定である。附属高松中ではZOOMを利用して朝の会や質問教室を実施した。

(2) 坂出・綾歌地区

保健体育科で映像遅延アプリを使って自分の跳躍を実施後に確認する授業を行った。

オンラインでの授業や朝の会でZOOMやTeamesを活用した。

(3) 丸亀地区

研究授業の指導を県教育センターとオンラインで行ってICTの活用を進めた。

島しょ部ではZOOMを用いて他校との交流を行った。

(4) 小豆地区

iPadと教室のTVを使い、NHKの10min.ボックスやYouTubeの映像を、導入や再現が困難な現象の提示に活用している。

(5) さぬき・東かがわ地区

「オンライン会議」の方法とそのツールについての講義を受け、実際に実践を行い、問題点を洗い出した。

(6) 仲多度・善通寺地区

ZOOMを使った授業や集会などを行った。またAI型教材のQUBENAを利用した数学の学習や動画配信のYouTubeで限定公開をし、自宅学習に利用した学校もあった。

(7) 三豊・観音寺地区

ZOOMやCisco Webex Meetingsを利用し、夏休みにオンラインで朝の会を行った。また、3年生を対象とした診断対策の授業を行った。

4 今後の課題

GIGAスクール構想の前倒しにより、年度内に各地区で1人1台環境は整備できると思われる。しかし、それを利用する教師の研修や新学習指導要領を実施する中で、ICTをどのように使うと効果的か等の研究はまだ始まったばかりであり、本部会でも積極的に研究を進めていきたい。

豊かな人権文化の創造をめざす人権・同和教育

人権・同和教育研究部会

1 研究主題について

21世紀は「人権の世紀」と言われ、近年「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」など、差別解消のための法制化が進んだ。また、人権・同和教育に関するこれまでのさまざまな取組と蓄積によって、人権尊重の理解と意識は高まりと広がりを見せているように思われる。しかし、依然として同和問題をはじめ多くの人権課題があり、また国際化、情報化などの進展で新たな人権課題も生じている。これらの現状をふまえ、一人ひとりの子どもの可能性を追求しながら、人権尊重の視点に貫かれた学校づくり（人権文化の創造）を展開し、生徒が自分・他者ともにかげがえのない存在であると認め合い、互いを尊重し合う集団づくりをしながら、同和問題をはじめさまざまな人権課題解決に向けた意欲と実践力の育成を図りたいと考える。

2 研究の概要

(1) 四国地区人権教育研究大会（紙面報告）

① 「受容的な風土を生かしたなかまづくり」

丸亀市立本島中学校 内海明人

たくみさん（仮名）が、人間関係などに悩みながらも、教職員やなかまや保護者の支えを受けて、葛藤を乗り越え、たくましく成長し、卒業していった姿が報告された。特に合同運動会では全教職員で全生徒にかかわるという方針を徹底して実践し、成果をあげた。学校行事をなかまづくりのよい機会ととらえ、実践していくことが大切だと教えてくれる報告であった。

② 「『分かってない』と思われたくない

～自分に自信がもてない、せいやさんとのかわりをおして～

観音寺市立中部中学校 美藤純子

「分かっていない」と思われたくない、「頑張ってるって思われるん嫌や」と言うせいやさん（仮名）と、周りの生徒たちを担当がつなぎ、せいやさんにとっての居場所をクラスに作っていく取組が報告された。また、全教職員が職員会議後の人権・同和教育の職員研修で、自身の悩みや生徒

の長所を共有し、日々「つなぐ」を意識して教育活動を推進し、成果をあげた報告であった。

(2) 香川県人権・同和教育研究大会（紙面報告）

① 「過去は変わらないけど、未来は変わる！～差別の解消を発信する生徒の育成をめざして～」

高松市立庵治中学校

古味英之・千葉秀幸

あいさん（仮名）ら生徒たちが「大島青松園」で暮らすハンセン病回復者の方々と交流することを通して、間違った知識が差別や偏見を生むことを知り、正しいことを知る大切さを学んだ姿が報告された。小・中学校が連携して人権・同和教育に取り組むことの大切さについても教えてくれた。

② 「居心地の良い学校づくりをめざして」

高松市立牟礼中学校

谷 洗希・岡本亜沙美

登校できなかったはるかさん（仮名）が、周りのなかまや教職員に支えられてクラスに居場所を見つけ、感謝の思いを伝えたことを契機として、学校全体でクラス会議を行うことになった取組が報告された。「ほっとトーク」という対話活動も行い、授業では、なかまを認め、自分たちで課題解決していくスタイルを構築していった。

3 成果と課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により夏季研修会が中止となり、各支部の活動も大幅に縮小された。人権・同和教育研究大会は紙面発表となり、日々の教職員と生徒との実践が報告された。実践に共通していたのは「なかまづくり」や「つなぐ」取組である。新型コロナウイルス感染拡大による感染者や医療従事者及びその家族等に対する偏見・差別も今、深刻な人権問題として浮かび上がっている。身近にあるさまざまな人権課題に対して正しい人権感覚をもち、よりよくつながっていけるなかまづくりをこれからも推進していきたい。

豊かな心と自ら学ぶ力を育てる学校図書館

学校図書館研究部会

1 研究主題について

読書には「豊かな心」を育てるとともに、学校図書館を中心に据えた「学ぶ力」を育成するという大きな役割がある。

また、学校図書館は「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割を持ち、全ての教科、全ての教育活動において計画的・効果的に活用されることが望まれる。

このようなことから、学校図書館部会では、生徒たちがよりよく生きるための「豊かな心」と「学ぶ力」を身につけられることを目的とし、図書館教育を進めたいと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、全国学校図書館研究大会が中止となり、本部会の研究も当初の計画から大幅に変更することとなった。そこで、今後の研究大会の発表に向けて、各郡市で研修した内容を紹介する。

(1) 令和4年度香川県大会に向けての研修

さぬき・東かがわ支部では、研究授業が中止となり、各校での感染予防対策の観点に立った学校図書館運営の実際と図書館を活用した授業実践について、発表・交流がなされた。また、部会員がお気に入りの本を持ち寄っての「ビブリオバトル」の実演を行った。多様な本の魅力に触れることができ、学校図書館部会らしい研修になった。

(2) 令和3年度四国大会に向けての研修

小豆支部では、読書活動の活性化をめざして、各校が具体的な実践を持ち寄り情報交換を行った。図書室の掲示の工夫や本の展示コーナーの設置など読書環境を整備し、生徒が本に興味を示し図書室に足を運んでくれるようにしている。また、朝の読書の時間や昼

休みなどの活動を通して、読書活動の充実を図り、生徒に読書習慣を身に付けさせるように工夫している。今年度は、主に委員会活動を充実させるために具体的な実践として、読書イベントの実施や本の紹介、読書強調週間の実施などの活動例が発表され、参考になった。また、国語科における学校図書館の活用として、ビブリオバトルや本の帯づくり、図書室オリエンテーリングとして本探しビンゴゲームなどの実践報告を行った。

3 成果と課題

さぬき・東かがわ支部では、今後、令和4年度の発表に向けて研究を重ねていく。具体的には、前年度の四国大会分科会発表の実践の中にもあった「読み聞かせ」や、討議会で話題に上がった学校図書館司書との協働についての実践を各校で考えていきたい。さらに、次年度から完全実施となる学習指導要領の内容を受け、各教科・特別活動・道徳等の年間計画と図書館教育年間計画とを照らし合わせた年間計画の作成を進めていきたい。

小豆支部では、図書支援員や町立図書館の司書の協力を得て、図書室の環境が整備され、図書室を訪れる生徒数や貸し出し冊数が増加してきた。そして、情報交換することで工夫された実践を知ることができ、読書活動・委員会活動の充実につながっている。今後は、各教科で活用できる図書の情報を発信し、授業改善に生かしていけるようにし、図書室の利用の多様化を図っていきたい。

学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくりと教育相談の充実

— ①教育相談の在り方とその充実 ②教育相談体制の充実 ③教育相談に関する教員の意識及び能力の向上 —

教育相談研究部会

1 研究主題について

(1) 教育相談の意義

中学校学習指導要領解説（特別活動編）によれば、「教育相談は、一人一人の生徒の教育上の問題について、本人又はその親などに、その望ましい在り方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限定することなく、すべての教師が生徒に接するあらゆる機会をとらえ、あらゆる教育活動の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。」とされている。すなわち、教育相談は、生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して特定の教員だけが行う性質のものでなく、相談室だけで行われるものでもない。これら教育相談の目的を実現するためには、発達心理学や認知心理学、学校心理学などの理論と実践に学ぶことも大切であり、学校は教育相談の実施に際して、計画的、組織的に情報提供や案内、説明を行い、実践することが必要となる。（生徒指導提要（文部科学省）第5章「教育相談」参照・一部引用）

(2) 研究主題の設定

教育相談研究部会では、生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ることを主な内容とし、研究主題「学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくりと教育相談の充実」を設定した。令和2年度は、研究組織の立ち上げに取り組むとともに、これまでの各支部・各学校の実践を生かしつつ、研究主題の達成が図れるように、サブテーマを幅広く設定した。

2 研究の概要

(1) 各支部の主な内容

○高松、丸亀、小豆、さぬき・東かがわ仲多度・善通寺、三豊・観音寺

「学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくりと教育相談の充実」

○坂出・綾歌

「生徒一人ひとりを大切にした教育相談体制づくりと教育相談の充実」

(2) 教育相談研究部会 研修会

日時 11月17日（火）14:00～

場所 香川県教育センター

内容 部会運営と研究等

(3) 組織・運営

○「部会 役員名簿」の策定

○「部会運営細則」の策定

○「部会 組織・運営」の策定

3 成果と課題

令和2年度から、「学校保健研究部会」が「教育相談研究部会」に変更され、令和元年度に開催された「香中研学校保健部会研究大会（琴平町立琴平中学校）」終了後、事務局が高松市に置かれた。事務局の移行にともない、部会長も高松市内中学校の校長に移行し、高松市において令和4年度の「香中研教育相談部会研究大会（高松市立太田中学校）」開催と発表内容について検討することができた。コロナ禍にて、令和2年度の研究大会や研修会が中止や紙上発表となる中、理事による研修会を開催し、各支部・各学校においても組織が立ち上げられたことは成果である。

今後は、立ち上げた組織にて、研究主題にアプローチし、研究推進を図るとともに、令和4年度の研究大会に向けた準備を行っていきたい。

長期的な視野に立ち、共に生き共に高め合う特別支援教育をめざして

— 『自信と勇気』をもたせる教育活動のあり方 —

特別支援教育研究部会

1 研究主題について

本部会では平成30年度より研究主題を「長期的な視野に立ち、共に生き共に高め合う特別支援教育をめざして」と設定し、生徒同士、教員と生徒、教員同士が、共に高め合うことができるより質の高い特別支援教育をめざしている。また、生徒が義務教育を卒業し、進学や就職を迎える際に、自信をもって新たな社会に進み、勇気をもって夢を追うことができる力を育成することが、担当者としての責務であるという基本的な考えに基づいて、サブテーマを「『自信と勇気』をもたせる教育活動のあり方」に設定している。

昨年度は香川県で第24回全特連中国・四国地区研究大会が開催され、本部会の取組を知っていただくとともに、課題も明確となった。この研究大会の成果を今後につないでいくためにも、本年度も引き続きこの研究主題のもと継続した研究を進め、特別支援教育の更なる充実を図りたいと考えている。

2 研究の概要

(1) 第1回香中研特別支援教育部会研修会

- ① 期日 令和2年5月27日（水）
 - ② 場所 香川中部養護学校
 - ③ 内容
 - ・ 令和元年度事業・決算報告
 - ・ 令和2年度事業・予算計画
 - ・ 令和2年度研究テーマについて
 - ・ 令和2年度夏季研修会について
- ※ 感染症対策のため中止、紙面にて提案

(2) 夏季研修会

- ① 期日 令和2年8月19日（水）
- ② 場所 三木町文化交流プラザ
- ③ 内容

ア 講演

香川大学教育学部 小方朋子 教授

イ 提案発表 高松市立一宮中学校

「高松市立一宮中学校の取り組みから」

～障がい理解から

自分の生き方を考えよう～

※ 感染症対策のため中止、提案発表については研究紀要にて報告

(3) 第2回香中研特別支援教育部会研修会

- ① 期日 令和3年2月25日（木）
 - ② 場所 香川県教育センター
 - ③ 内容
 - ・ 令和2年度事業・決算報告
 - ・ 令和3年度事業・予算計画
 - ・ 令和3年度研究テーマについて
 - ・ 令和3年度夏季研修会について
 - ・ 令和3年度提出書類について
- (名簿・進路状況等)

3 成果と課題

今年度は上記の通り、新型コロナウイルス感染症対策のため、夏季研修会が中止となり、予定していた講演や提案発表を行うことができなかった。また、各地区における活動についても全員が集まる機会が減るとともに、各地区で行っている特別支援学級の生徒を集めての活動も軒並み中止となり、思うように研究を進めることができなかった。しかし、そのような中でも各学校で取組を進め、報告し合い、今年度も特別支援教育部会としての研究紀要をまとめることができた。

これからも、会員相互に日々研鑽を積み、協力して研究を進めていきたいと考えている。

ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成

～ へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして ～

へき地教育研究部会

1 研究主題について

へき地の子どもたちは豊かな自然に囲まれ、地域の人々の温かさの中で育っている。一方、若者の流出、高齢化、空き家の増加等で、学校内外において様々な人と切磋琢磨する経験が減少している。そのため、子どもたちの特徴として、純朴ではあるもののコミュニケーション力が弱い、ふるさとや自分の将来について、夢や希望をもちづらといった課題が感じられる。

このような現状を踏まえ、へき地教育研究部会では、未来を生きる子どもたちに、地域の一員として「ふるさと」のよさを知り、「ふるさと」でたくましく生きていくための基盤を養い、自分の未来や我が国を切り拓いていく人間力を育んでほしいとの思いで、本研究主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 高松・直島

① 研究主題

「豊かな心と確かな学力をもつ
児童・生徒の育成」

② 取組

・ICT機器の活用、リモート会議システムを利用した他校生との交流

(2) 丸亀

① 研究主題

「ふるさとで心豊かに学び、
新しい時代を切り拓く子どもの育成」

② 取組

・リモート会議システムを利用した他校生との交流
・丸亀市小中学校合同で高松空港及びさぬきこどもの国への校外学習

(3) 坂出

① 研究主題

「ふるさとでの学びを生かし、
新しい時代を築く心豊かな生徒の育成」

② 取組

・オンライン授業の実施、授業時数の確保、行事の工夫、保健・安全指導の徹底

(4) 三豊・観音寺

① 研究主題

「ふるさとを愛し、自ら学び心豊かで
たくましく生きる児童・生徒の育成」

② 取組

・手指消毒や校内消毒等衛生管理の徹底、行事における参加者制限など3密対策の徹底、オンライン授業の準備

(5) 小豆

① 研究主題

「ふるさとに誇りをもち、
新しい時代を拓く、心豊かな子どもの育成」

② 取組

・研修日の削減、行事の精選並びに縮小、学校HPを利用した情報の発信

3 成果と課題

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のためほとんどの行事が中止となり、各校とも思うような教育活動を行うことができなかった。しかし、リモート会議システム等を利用した他校との交流がクローズアップされ実施する機会が多くできた。このことは、今後の少人数学級を有するへき地校において、他校生とつながる教育活動の可能性を大きく広げることとなった。さらに、ICT機器を活用した教育活動を充実させていきたい。

教育ビジョン実現に向けて 未来をひらく学校事務の挑戦

学校事務研究部会

1 研究主題について

学校教育は児童生徒や保護者のニーズだけでなく、地域・社会情勢の変化や技術革新にも影響されている。そのような変化に柔軟に対応しながら、教育ビジョン実現に向けて未来を開拓できる事務職員であり続けたい。私たちの目指す「教育ビジョン」とは、単に「学校教育目標」だけを意味するのではなく、事務職員や共同実施・教育委員会・地域など、それぞれの描く「教育に対する理想像」を示している。

2 研究の概要

【各支部の研究】

(1) 高松支部

事務職員個人の能力を伸ばす「ひと」づくり、共同実施や教育委員会など複数の組織で連携・協同するための「ちから」づくり、業務を改善しこれから求められる新しい学校事務の「しくみ」づくりの3つを柱として研究の質的転換を図っている。これら3つの柱を基に「財務」「情報」「人事」「経営」の4つの専門グループでの活動を通して「教育ビジョン」実現に向け、さらなる挑戦を続けていきたい。

(2) 丸亀支部

グループ研究活動を通して関係機関と連携・協力し、主体的・積極的に学校経営に参画することで制度改正や効率的な事務処理体制の確立を図り、教職員の事務負担軽減に向けての教育支援を行っている。日々の実践の中から得られた成果や課題を共有し、学校運営の充実・改善に貢献したい。

(3) 坂出・綾歌支部

「財務マネジメントを核とした学校運営への参画」「よりよい教育環境の整備」「共同実施体制の強化」「事務機能の強化」を軸に、「地域とともにある学校」「社会にひらかれた教育課程」を実現するための研究を行う。事務を「つかさどる」職として、次代を創る学校

事務の在り方を追求していく。

(4) 三豊・観音寺支部

学校事務職員個人の専門性を高めるだけでなく、管理職や教職員との協働、共同実施組織や市教育委員会等関係機関との連携を図りながら、チームの一員として新たな学校事務の実現を目指す。「チーム力」を生かして、学校の事務機能の強化や教育活動への支援を積み重ねながら、学校事務の未来をひらく一歩を探求する。

(5) 仲多度・善通寺支部

「楽」を柱とし、共同実施と学校事務のこれからを考える「未来を考える研究グループ」と、問題を発見し相互に解決・継続研究等から実務を研究する「現実を見つめるグループ」の2グループで具体的・実践的な研究を推進する。この2つの研究を通して、企画・提案する力を養い、実践力を身に付けていきたい。

(6) 小豆支部

全体研究では小豆郡全体の標準化等について、これまでの課題を焦点化し計画的に進める。町別研究では共同実施組織の連携を強化し、情報共有や共通理解を図ることで支部全体の学校事務の質の向上と共通実践につなげる。

(7) さぬき・東かがわ支部

職務の専門性をふまえ、様々な制度改正等にも対応できるように研修を充実させる。効果的な研修となるよう全体またはグループ別の形で課題解決を図り、各学校へその成果を反映させていきたい。

3 成果と課題

事務職員個人の資質向上の取組とともに、共同実施の活用や関係機関との連携により、制度改正や効率的な事務処理体制確立に向けた取組が進んでいる。この体制が実効性をもち、教育ビジョン実現につながるよう研究を深めていきたい。

すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育の在り方

— 学校給食を活用し、望ましい食習慣を身につけた生徒の育成をめざして —

学校給食研究部会

1 研究主題について

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、生活様式が大きく変化した。そこで感染予防対策を考慮した学校給食の取組により、生徒たちが望ましい食習慣を身につけ実践する力を育成することが必要となった。学校給食を生かし、すこやかな心身と豊かな人間性をはぐくむ食育を推進するため学校教育全体で取り組む研究を各支部で進めた。

2 研究の概要

(1) 高松支部

感染症への予防策について、各校の取組の情報交換を行い、徹底できていなかったことを見直す機会とした。研究授業は参観でなく授業後の紙上発表とした。「骨骨貯金に向けて献立を工夫しよう」の授業は栄養教諭とのTTのため、専門的で中学生の時期にしかできない体づくりを意識する機会となった。

(2) 坂出・綾歌支部

感染予防を考えた安心・安全な学校給食の有り方や生徒・保護者啓発について情報交換を行った。休業中には、「コロナウイルスから大切な人を守ろう」の調べ学習で自分たちにできることを考えさせた。また、簡単に作れるレシピ集を配布し、家庭での料理の意欲づけを行った。

(3) 丸亀支部

感染症対策を徹底した上で、学校の実態に合わせた実践を行った。家庭科授業「食品ロスが出る原因を考える」において栄養教諭が教室で実際に食品ロスを減らした「野菜のきんぴら」の調理、国語科授業「鰹節－世界に誇る伝統食」では、鰹節を削り器で削る体験を栄養教諭とTTで行い理解を深め、実践意欲を高めた。

(4) 仲多度・善通寺支部

学校給食を中心に生徒たちの心身を育てる

研究を進めた。栄養教諭による給食時間の食に関する指導をオンライン会議システムで実施し、給食を食べながら映像に注目させた。家庭科の地産地消の題材において地産地消レシピを夏休みの課題として地域の機関に出品し、家庭や地域と連携した取組とした。

(5) 三豊・観音寺支部

各校の実態に即した教材研究を行った。遠隔授業において、「災害時にも作れる簡単献立」、まな板や包丁などの用具類も一人1セットでの調理の実践等を各校独自で取り組んだ。活動制限のなか、衛生面に気をつけた活動ができた。

(6) さぬき・東かがわ支部

感染予防を考えた給食時間の在り方を模索した。研究会では講演「給食時間や食に関する指導の在り方」、手洗いチェッカーを使った手洗い検査、各校での情報交換により指導の在り方について共通認識を図ることができた。

(7) 小豆支部

臨時休業明けより、給食の残菜が例年より多くなったため、その対策を実施した。自分の身体にあったご飯の量を知らせるための取組「1食分の適切なご飯の量」の表や見本、給食一人当たりの基準量の写真などの具体物を示すことにより効果的な取組となった。

3 成果と課題

新型コロナウイルスの影響で、様々な活動に制限があったが、今まで以上に衛生面に気をつけて活動を実施できた。各支部の取組の共有により、給食時間をはじめ、教科、特別活動等、教育活動全体の様々な場面での食に関する指導や地域や栄養教諭と連携するなど実態に合わせて工夫された取組を次年度に生かしたい。引き続き望ましい食習慣の形成に向け、実生活に生かせる研究を進めていきたい。

IV 事業報告

本 部

1 令和2年度研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 活動方針等

(1) 活動方針

香川県教育委員会及び市町教育委員会、香川県中学校長会との連携を一層深め、大きく変革している学校教育を取り巻く様々な課題に対応できる実践的な教育研究を進め、県下中学校教職員の指導力や資質・能力の向上に努め、生徒の学力向上を図る。

(2) 運営体制

会長と支部長、各教科・教科外研究部会長との意思疎通を十分に図り、香中研全体が組織的かつ機動的に活動できるよう努める。

3 役員会及び運営委員会

(1) 第1回

本部役員会 5月21日（木）10:00～11:40
運営委員会<中止>
5月21日（木）10:00～11:40

(2) 臨時

教科部会長会 6月12日（金）14:00～15:00

(3) 第2回

本部役員会 7月10日（金）14:00～16:25
運営委員会 8月7日（金）14:00～16:25

(4) 第3回

本部役員会 11月27日（金）14:00～16:25
運営委員会 12月6日（金）14:00～16:25

4 各支部・部会の事務局長・会計長会

(1) 第1回<中止>

5月21日（木）14:00～16:25

(2) 臨時

会計長会 6月12日（金）15:00～16:25

(3) 第2回

2月10日（水）13:00～16:25
2月12日（金）13:00～16:25

5 調査研究活動

(1) 香中研の組織・運営・研究方針に関する研究協議

(2) 香中研研究大会及び夏季研修会の効果的な運営に関する研究協議

(3) 研究部会による研究推進及び研究報告書等の研究協議

6 研究大会

(1) 支部夏季研修会<一部中止>

7月28日（火）

(2) 教科夏季研修会<中止> 7月30日（木）

(3) 教科外夏季研修会<中止> 8月19日（水）

(4) 教科研究大会<誌上発表>

社会科部会（県・大会） 11月5日（木）

数学部会（県・大会） 11月5日（木）

音楽部会（県・大会） 11月5日（木）

美術部会（県・大会） 11月5日（木）

保健体育部会（四国・大会） 11月5日（木）

技術・家庭部会（県・大会） 11月5日（木）

養護部会（県・大会） 11月5日（木）

7 研究成果刊行物・その他

(1) 「研究紀要」第61号、「香中研だより」

香川県教育委員会、同各教育事務所、香川県教育センター、市町教育委員会、県内大学、各中学校会員に配布

(2) 「研究紀要」URL

<http://www.kachuken.jp/honbu/news/>

高 松 支 部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 高松地区中学校教育研究会総会

総会は開催せず、部会ごとに紙面での報告

内容 令和元年度事業報告・決算報告
令和2年度事業計画・予算審議
各部会（教科・教科外）事業計画
役員選出、研究の進め方等

3 研究大会

新型コロナウイルス感染症対策のため誌上発表となった。

(1) 令和2年度高松地区中学校教育研究大会 (北ブロック)

高松市立高松第一中学校

研究主題 「9年間を見通した確かな学力と豊かな心の育成の実現—自己有用感と主体的な学びを育む授業づくり—」

(2) 令和2年度高松地区中学校教育研究大会 (南ブロック)

高松市立香東中学校

研究主題 「お互いのよさに気づき、高め合える生徒の育成～安心して互いの学びが交流できる活動を通して～」

4 教科研究会・教科外研究会

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら開催した。

(1) 教科研究会

定期試験前日の午後を中心に、関係中学校や総合教育センター等において、部会ごとに実践研修等を行った。

(2) 教科外研究会

定期試験第1日目の午後を中心に、関係中学校や総合教育センター等において、部会ごとに実践研修等を行った。

5 研究成果の発刊

研究大会要項をブロックごとに会員に配付するとともに、部会ごとに研究紀要を作成して会員に配付。

丸 亀 支 部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究会・行事

(1) 丸亀支部代表者研修会

日時 4月3日（金） 14:00～16:00

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 研究主題について検討
年間計画、総会の打ち合わせ

(2) 総会並びに第1回部会…中止

日時 5月1日（金） 13:55～16:20

会場 丸亀市立飯山中学校

内容 研究主題、研究計画、組織決め
教科部会(11部会)教科外部会(12部会)

(3) 市夏季研修会…中止

日時 7月28日（火） 9:00～

会場 丸亀市立西中学校、綾歌中学校 他

内容 教科部会
各教科で研究討議や現地研修会

(4) 市中学校総合研究会並びに第2回部会

日時 10月27日（火） 13:30～16:30

会場 丸亀市立南中学校

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを通し、学ぶ良さを実感できる生徒の育成～主体的・対話的で深い学びの活動や支援の工夫を目指して～」

内容 教科の研究主題に基づく公開授業
研究討議

(5) 第3回部会…中止

日時 12月7日（月） 14:00～16:30

会場 丸亀市立東中学校

内容 本年度のまとめと来年度の計画

(6) 丸中研編集委員会

日時 1月5日（火） 14:00～16:00

会場 丸亀市立綾歌中学校

内容 研究内容のまとめと編集

3 研究成果の刊行

「研究紀要第52号」全員に配布

本年度の研究経過、内容、討議等のまとめ

坂出・綾歌支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校力を高める研究会活動」
一確かな学力の定着と

豊かな心の育成をめざして—

2 主な研究活動

(1) 坂出・綾歌支部総会、教科、教科外研修会

期日 4月21日(火) ※参加者制限縮小
会場 坂出市立白峰中学校
内容 研究主題、研究計画、研究組織等の決定
教科部会 (11部会)
教科外部会 (14部会)

(2) 教科研修会

期日 10月6日(火) 市・郡内各中学校
内容 部会ごとに研究授業、提案発表及び情報交換等
※ 6月5日予定の第1回は中止
※ 中国四国中学校技術・家庭科教育研究会
(誌上発表)

(3) 教科外研修会

期日 10月29日(木) 市・郡内各中学校
内容 部会ごとに研究授業、提案発表及び情報交換等
※ 6月16日予定の教科外A第1回は中止
※ 7月28日予定の教科外Bは中止

(4) 運営研修会

第1回 4月3日(金) 宇多津町立宇多津中学校 研究方針及び事業計画の作成
第2回 1月29日(金) 坂出市立東部中学校 本年度の反省と来年度の計画及び研究日程案の検討

3 研究成果の刊行

「研究と実践 第56集」を会員に配布

小豆支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究会・行事

(1) 小豆支部総会・部会研修会

日時 4月24日(金) 15:00~16:30
会場 土庄町立土庄中学校
内容 総会(全体会)
※ 総会は、新型コロナウイルス感染症予防対策により紙面で周知
教科部会(10部会)教科外部会(11部会)
研究組織・研究主題・研修計画等の決定

(2) 教科研修会

① 第1回(統一) 6月10日(水)
会場 郡内各中学校
内容 研究授業・研究協議等
※ 新型コロナウイルス感染症予防対策により中止

② 第2回

日時 さみだれ方式
会場 郡内各中学校
内容 テーマに基づく研究・研究授業・研究協議等

(3) 教科外研修会

① 第1回(・第2回)
日時 さみだれ方式
(各部会 年間1~2回)
会場 郡内各中学校 他
内容 テーマに基づく研究・研究授業・研究協議等

3 研究成果の刊行

「研究と実践」第60号を全員に配付
入手先:小豆支部事務局(土庄中学校)

さぬき・東かがわ支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」

2 主な研究活動

(1) さぬき・東かがわ支部全体会（中止）

期日 5月1日（金）

会場 さぬき市立さぬき南中学校

内容 研究主題、研究計画、組織等の決定

※ 本会は中止となったため、紙面による報告を行った。

(2) 教科研究会

期日 第1回：6月11日（木）（中止）

第2回：9月18日（金）

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 模擬授業、研究発表、録画映像の視聴による研究討議等

(3) 教科外研究会

期日 第1回：7月28日（火）（中止）

第2回：10月9日（金）

会場 さぬき・東かがわ市内各中学校等

内容 模擬授業、研究発表、研究討議、講話、実技研修、情報交換、現地研修等

(4) 教科・教科外部長研修会

期日 第1回：5月1日（金）（中止）

第2回：1月18日（月）

会場 さぬき市立さぬき南中学校

内容 第1回：本年度のさぬき・東かがわ支部の研究会の在り方及び方向付け

第2回：本年度の反省と次年度の計画等

※ 第1回は中止となったため、紙面による周知を行った。

3 研究成果の刊行活動

「研究紀要」を全会員に配布（2月）

仲多度・善通寺支部

1 研究主題

「教職員一人一人の資質・能力と意欲の向上を図り、学校の教育力を高める研究会活動」
—授業力向上のための指導と評価の充実—

2 主な研究活動

(1) 仲・善支部総会

日時 5月1日（金）14:00～16:30

※中止

(2) 教科等研究会

日時 6月17日（月）14:00～16:30

※中止

(3) 教科・教科外研究会

日時 7月28日（火）8:20～12:20

※中止

(4) 教科等研究会

日時 8月19日（水）8:40～12:00

※中止

(5) 教科等研究会

内容 教科等研究員の授業を録画したDVDを郡市内の学校に配布し、学校ごとに研究協議を実施

(6) 学校事務部会

日時 5月24日（金）13:30～16:30 中止

8月20日（火）9:00～16:30 中止

10月7日（月）13:30～16:30

会場 多度津町民健康センター

内容 事例発表・グループ研究等

1月17日（金）13:30～16:30 中止

3 研究成果の刊行

各教科・教科外部会の実践を「研究紀要」にまとめ、全会員に配布

三豊・観音寺支部

1 研究主題

「豊かな学びを求め、主体的・創造的に生きる生徒の育成をめざした中学校教育の実践」
—教職員の資質能力と意欲の向上をめざす、各部会の創意ある実践的研究—

2 主な研究活動

(1) 三観地区中学校教科・教科外等部長・理事
一斉研修会（誌上）

- ① 日時 5月1日（金）
- ② 会場 各中学校
- ③ 全体会：研究活動の推進について
- ④ 各部会：研究主題の決定
組織づくり・研究計画の作成

(2) 三観地区中学校教育研究会（A群）

- ① 日時 11月13日（金）
- ② 部会名、会場（誌上発表）

【国語部会】	三豊市立仁尾中学校
【社会科部会】	観音寺市立中部中学校
【理科部会】	三豊市立高瀬中学校
【音楽部会】	観音寺市立豊浜中学校
【美術部会】	三豊市立詫間中学校
【保健体育部会】	観音寺市立大野原中学校
【技術・家庭科部会】	

学校組合立三豊中学校

【英語部会】	観音寺市立観音寺中学校
--------	-------------

○【数学部会】県大会と兼ねた。

11月5日（木）三豊市立豊中中学校

(3) 教科等各部会夏季研修会

○日時 7月28日（火）中止

(4) 各部会理事・主任研修会

- 年3回実施
- ・第1回はほとんど中止した。
 - ・第2回は2学期に分散して行った。
中止した部会もあった。
 - ・第3回は1月15日に教科部会を一斉に行った。

3 研究成果の刊行

「三観の教育」第50集

国語教育研究部会

1 役員・理事会

年間5回開催
・研究組織及び運営の検討
・研究の方向性についての協議
・令和5年度全国大会（三観支部）に向けて、
組織や研究内容についての協議

2 夏季研修会

コロナウイルス感染拡大防止のため中止

3 若年研修部会

香川県教育センターでの若年研修会（授業研究、及び講師による指導助言）

4 機関誌「国語科教育」の刊行

・各支部の活動報告
・研究実践記録、随想 等

5 ホームページ

Googleとyahooで「香川県中学校国語教育研究会」を検索

<http://sites.google.com/site/kagawakokugo>

社会科教育研究部会

1 役員会、評議員会

年間5回開催、研究組織及び内容の検討等

2 令和2年度香川県中学校教育研究会 社会科部会研究大会（小豆・さ東大会）

- (1) 日時 令和2年11月
- (2) 場所 土庄町立豊島中学校（9日）
土庄町立土庄中学校（13日）
小豆島町立小豆島中学校（4日）
- (3) 内容 誌上発表

3 若年教員授業力向上研修について

- (1) 日時 令和2年11月
- (2) 場所 附属坂出中学校（5日）
附属高松中学校（17日）
- (3) 内容

13:30～14:00 受付
14:00～16:00 若年者による授業説明・授業討議
16:00～16:20 本研修の振り返り

4 研究成果の刊行

「令和2年度香川県中学校教育研究会社会科部会研究大会（小豆・さ東大会）大会要項」
「社会科研究」第61号

数学教育研究部会

1 総会

6月 Web採決

・前年度事業報告、決算報告、事業計画等

2 夏季研修会（中止）

7月30日（木）三木町文化交流プラザ

3 研究大会

11月 誌上発表

4 若年研修会

12月10日（木）附属高松中学校

5 理事・代議員会及び研究委員会

2月20日（土）附属高松中学校

6 「数学教育評論」第15巻1号の刊行

理科教育研究部会

1 役員・評議員・理事研修会

〔第1回〕 令和2年5月16日（土）理事会中止

場所 香川大学教育学部附属坂出中学校

内容 事業・会計計画、役員改選 等

〔第2回〕 令和2年12月5日（土）理事会中止

場所 香川県教育会館

内容 事業・会計中間報告、若年研の報告等

〔第3回〕 令和2年2月20日（土）

場所 香川大学教育学部附属高松中学校

内容 各郡市研究成果の発表 等

2 若年研修会

期日 令和2年11月30日（月）

場所 香川大学教育学部附属高松中学校

授業者 萱野大樹

単元 「物質のすがたとその変化」

内容 公開授業（リモート開催）

授業・研究討議、実践報告会

3 機関誌「理科教育—中学校—」の刊行

音楽教育研究部会

1 企画会

〔第1回〕 令和2年4月23日（木）

○ 事業・会計計画、役員改選等

〔第2回〕 令和2年11月24日（火）

○ 事業・会計中間報告、研究推進等

2 理事会

〔第1回〕 誌上提案・決議

〔第2回〕 令和2年12月5日（土）

3 研究部会

〔第1回〕 令和2年8月17日（月）

○ 令和2年度研究大会（誌上発表）にむけて

〔第2回〕 令和3年2月21日（日）

○ 次年度研究推進について

4 夏季研修会

今年度中止

5 研究成果刊行 機関誌「香川音楽57号」

美術教育研究部会

1 役員・評議員 研究主任会合

〔第1回〕 新型コロナウイルス対応のため、誌面提案・決議

令和元年度事業報告、令和2年度事業計画、予算案決議、研修会に向けて協議

〔第2回〕 令和3年1月24日（土）

会場 香川大学教育学部附属高松中学校

令和2年度実践報告、令和3年度事業構想

2 夏季研修会 令和2年7月30日（木）

新型コロナウイルス対応のため、中止

3 県大会（誌上発表）事前研修会

〔第1回〕 令和2年8月29日（土）

〔第2回〕 令和2年11月14日（土）

会場 香川大学教育学部附属高松中学校

内容 提案・指導案の検討

4 総合文化祭展覧会

令和3年1月8日（金）～1月11日（月）

新型コロナウイルス対応のため、中止

5 研究成果の刊行 「美術教室第57号」

授業実践の報告、特色ある取組の報告

保健体育教育研究部会

1 役員会

- (1) 4月24日(木) 高松国際ホテル ※中止
- (2) 2月18日(木) 高松市総合教育センター

2 地区研究研修会

- (1) 第1回 6月7日(日) オンライン開催
・部会組織・研究計画
・四国大会誌上発表計画
- (2) 第2回 9月6日(日) 玉藻中
・四国大会誌上発表内容検討
- (3) 第3回 1月10日(日) 玉藻中
・今年度の研究のまとめ、次年度計画

3 夏季研修会

※中止

4 研究物の刊行

「県中保体だより」第61号

令和2年度香中研保健体育部会研究大会研究
紀要

英語教育研究部会

1 理事会

- (1) 期 日
第1回 5月17日(日)
(紙上による確認)
第2回 6月20日(土)
第3回 11月28日(土)
第4回 2月6日(土)
- (2) 会 場 高松シティホテル

2 春季大会(中止)

- (1) 期 日 6月12日(金)
- (2) 会 場 小豆島中学校
小豆島中央高等学校

3 夏季研修会(中止)

- (1) 期 日 7月30日(木)
- (2) 会 場 丸亀市綾歌総合文化会館
アイレックス

4 第70回香川県中学校英語弁論大会(中止)

- (1) 期 日 10月3日(土)
 - (2) 会 場 読売新聞社高松総局ホール
- ### 5 機関誌「中英香川57号」発行

技術・家庭科教育研究部会

1 役員・理事研修会

〔第1回〕 令和2年5月(書面決議)

- 令和2年度事業計画、予算案

〔第2回〕 令和2年10月18日(日)

- 事業状況確認、研究内容検討

〔第3回〕 令和3年3月7日(日)

- 本年度のまとめと次年度計画

2 研究大会(紙上発表)

内容 研究提案・指導案・指導などの紙面による発表

3 若年研修会

期日 11月6日(金)、11月9日(月)

場所 香川大学教育学部附属坂出中学校

内容 実践報告、研究討議など

4 研究成果刊行

- ・機関誌「技術・家庭科教育」第61号

5 香中研技術・家庭科部会HP

<http://www.kachuken.jp/section/gijyutsu-kateika/>

養護研究部会

1 役員・代議員・研究部員研修会

- (1) 令和2年5月21日(金) 香川県教育会館
※ 資料配布で研修会に代える
- (2) 令和3年2月 5日(金) 香川県教育会館
※ 参加人数を少人数にして、開催の予定

2 夏季研修会 ※ 中止

3 研究大会 ※ 中止のため、誌上発表

執筆①「養護教諭の専門性の深化をめざして」
京都女子大学 発達教育学部 教育学科

養護・福祉教育学専攻 教授 大川尚子

執筆②「中学生の発達について」

香川県教育センター学校支援アドバイザー

臨床心理士 川田行雄

支部での講演の記録「大会救護における心得」

独立行政法人国立病院機構

高松医療センター 看護師長 信里ユリエ

4 研究成果刊行

「研究紀要41号」

道徳教育研究部会

- 1 評議員・理事・研究委員会
5月9日(土) → 中止
○研究組織づくり、夏季研修会・研究大会の持ち方
2月15日(土)
○今年度の反省と令和3年度の研究について
- 2 研究部研修会
6月13日(土) → 中止
○郷土資料の編集・指導案作成等
11月21日(土) → 中止
○郷土資料の編集・指導案作成等
- 3 編集部研修会
8月1日(土) → 中止
○夏季研修会資料の作成
9月5日(土) → 中止
○道徳教育第44号の編集完成・印刷
- 4 夏季研修会 → 中止
日時：8月19日(水)会場：香川県教育センター
内容：全体会：基調提案
分科会：各校の実践発表

特別活動研究部会

- 1 役員・理事研修会
(1) 期日 令和2年6月
(2) 場所 三豊市豊中町農村環境改善センター
(3) 内容
① 令和元年度 事業報告、決算・監査報告
② 役員改選
③ 令和2年度 事業計画、予算案
④ その他 夏季研修会について
※ 新型コロナウイルス感染防止のため計画段階で開催中止決定 → 紙面決議
- 2 夏季研修会
(1) 期日 令和2年8月19日(水)
(2) 場所 ハイスタッフホール(観音寺市)
(3) 内容
① 各支部の取組発表
② 講演
※ 新型コロナウイルス感染防止のため中止、各支部の取組は刊行物に集録
- 3 研究成果刊行
「特別活動」第44号

生徒指導研究部会

- 1 役員研修会
〔第1回〕令和2年5月19日(火)
○事業・会計報告、事業計画、役員改選事業案・予算案・各支部情報交換 等
*新型コロナウイルス感染防止対策のため中止
書面にて表決を行う。
〔第2回〕令和2年11月20日(金)
○事業報告と反省
次年度の研究について・情報交換 等
- 2 夏季研修会
期日 令和2年8月19日(水)
場所 綾歌総合文化会館 アイレックス
内容 各支部からの実践発表

*新型コロナウイルス感染防止対策のため中止
各支部の実践例を書面にて周知。

メディア教育研究部会

- 1 評議員・理事研修会
〔第1回〕中止
○事業計画・会計報告、役員改選等
〔第2回〕令和3年1月29日(金)
○事業・会計報告、次年度研究方針等
- 2 NHK杯全国放送コンテスト
香川県予選 中止
全国大会 中止
- 3 夏季研修会
中止
- 4 研究成果(Web掲載)
URL <http://www.kagawa-edu.jp/kachuj01>

人権・同和教育研究部会

1 部会総会【紙面報告】

日時 5月8日(金)

会場 レグザムホール

内容 事業報告、事業計画、役員改選
四人研・全人教研究大会報告内容検討

2 部会研修会

〔第1回〕日時 4月9日(木)

内容 事業計画

〔第2回〕日時 9月15日(火)

内容 香同教研究大会の業務、紀要

〔第3回〕日時 2月25日(木)

内容 反省、次年度の計画

3 夏季研修会【中止】

日時 8月19日(水)

会場 香川県立文書館

内容 香同教研究大会報告内容の検討
指導助言

4 人権・同和教育研究紀要の刊行

教育相談研究部会

1 役員(支部)研修会

○4月中止

○6月・9月・11月・2月(一部支部実施)

2 理事研修会

○5月中止 ※5月11日メール・紙面研修

○11月実施

日時 11月17日(火)14:00～

場所 香川県教育センター

内容 部会運営と研究等

3 理事・役員研修会

○11月中止 ※11月24日メール・紙面研修

4 運営委員(支部)研修会

○6月・9月・11月・2月(一部支部実施)

5 夏季研修会

○8月(8月17日)中止

6 刊行等(今年度研究成果刊行なし)

※「細則」「組織一覧」「組織・運営」資料
配付

特別支援教育研究部会

1 役員・評議員・理事研修会

〔第1回〕令和2年5月27日(水)

○事業・予算計画、役員改選、夏季研計画

※感染症対策のため中止、紙面にて提案

〔第2回〕令和2年2月25日(木)

○事業・会計報告、研究成果刊行物配布

○次年度の事業・予算計画

2 夏季研修会

期日 令和2年8月19日(水)

場所 三木町文化交流プラザ

内容

講演 香川大学教育学部 小方朋子 教授

提案発表 高松市立一宮中学校

「高松市立一宮中学校の取り組みから」

～障がい理解から

自分の生き方を考えよう～

※感染症対策のため中止、提案発表については研究紀要にて報告

3 研究成果「研究紀要」の刊行

学校図書館研究部会

1 学校図書館部会研修会

〔第1回〕

期日 令和2年5月14日(木)

場所 東かがわ市立白鳥小中学校

内容 事業・会計報告及び事業計画、役員改選

〔第2回〕

期日 令和2年10月29日(木)

場所 香川県教育センター

内容 読書感想文の審査

2 研究成果刊行

香川県読書感想文集66号

へき地教育研究部会

- 1 へき地教育研修総会（中止）
期日 令和2年5月19日（火）
場所 銀星旅館
- 2 へき地校長研修会・へき地教育研修会
 - (1) 第1回（中止）
期日 令和2年6月8日（月）
内容 研究紀要編集計画、原稿依頼
 - (2) 第2回
期日 令和2年9月25日（金）
内容 研究紀要作成
 - (3) 第3回
期日 令和3年1月22日（金）
内容 研究紀要校正
- 3 県へき地教育研修講座（中止）
期日 令和2年7月31日（金）
場所 土庄町立中央公民館
内容 講演：香川のへき地教育について
講師：佐々木郁夫様
グループ協議
- 4 研究成果刊行
「香川のへき地教育」発行

学校事務研究部会

- 1 学校事務研修会
期日 令和2年5月15日（金）
場所 香川県教育センター
内容 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止
事業報告・会計報告・役員組織決定・事業計画・予算案審議・各支部等研修計画を紙面にて協議・承認
- 2 夏季研修会
期日 令和2年8月18日（火）
場所 レクザムホール
内容 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止
夏季研修会における発表の代替として高松支部の研究を冊子にまとめた。

学校事務部会HP

<http://www.kagawa-edu.jp/kasckj01/htdocs/>

学校給食研究部会

- 1 役員・理事研修会
 - (1) 第1回 令和2年6月4日（木）（中止）
内容 研究主題・研究大会等について
 - (2) 第2回 令和3年1月29日（金）
内容 各支部活動状況・次年度の計画
- 2 夏季研修会（中止）
日時 令和2年8月19日（木）
場所 高松市国分寺会館
内容 実践発表・講演
- 3 研究成果刊行
令和2年度 研究紀要

令和2年度若年教員授業力向上研修の開催について

1 目的

本県では現在、10年間で教員の約40%が退職するという過渡期にあり、若年教員の増加とともに、これまでの授業力の維持が大きな課題の一つとなっている。一方で、県教育センターでは、若年教員を対象にする研修として、初任者研修や教職1年経験者研修を実施しているが、教職2～4年経験者を対象とする研修は実施していない。

そこで、初任者研修、教職1年経験者研修で基礎・基本を研修した教員が、以後の3年間で自己研修を積み重ね、授業力の向上を図ることを支援するため、教科指導に係る若年研修を、香川県中学校教育研究会と香川大学教育学部の附属中学校が連携して香川県教育センターとの共催事業として実施し、授業力の向上を中心とした資質能力の向上を図る。

2 対象

- (1) 教職2年～4年経験の中学校教員
- (2) 受講を希望する教員

3 内容

- (1) 授業説明・研究授業・授業討議・課題の共有等とする。
- (2) 本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、以下の変更と条件を加えて実施する。
 - ① 9月以降に1回、香川大学教育学部附属中学校・香川県教育センターで実施する。
 - ② 対象者は出席することが望ましいが、校内行事等により所属長が判断した場合は、欠席することができる。
 - ③ 実際に行われている授業を参観して行う研修は実施しない。
 - ④ マスクの着用や手指のアルコール消毒、3密を避け換気をするなど、新型コ

ロナウイルス感染予防を徹底する。

- (3) 詳細は、各教科部会において「若年研修実施計画」を作成する。

4 実施報告

教科	国語	社会 (東部)	社会 (西部)	数学
対象者数	34	32		13
開催	12.3 (木)	11.17 (火)	11.5 (木)	12.10 (木)
会場	県教育 センター	附高中	附坂中	附高中
参加者数	対象者			
	20	12	18	8
	対象者外			
	3	0	1	3
教科	理科	音楽	美術	保体
対象者数	21	12	9	29
開催	11.30 (月)	11.20 (金)	11.5 (木)	12.15 (火)
会場	附高中	県教育 センター	附坂中	附高中
参加者数	対象者			
	10	8	9	21
	対象者外			
	5	2	1	3
教科	技・家 (技術)	技・家 (家庭)	英語	
対象者数	3	5	27	
開催	11.6 (金)	11.9 (月)	12.4 (金)	
会場	附坂中	附坂中	県教育 センター	
参加者数	対象者			
	3	4	21	
	対象者外			
	3	1	55	

V 組織等

本 部 役 員

役員名	氏名	勤務校	職名	郵便番号	学 校 所 在 地	電話番号	FAX番号	備 考
会長	木谷 直充	丸亀市立飯山中学校	校長	762-0082	丸亀市飯山町川原1110番地	(0877)98-2027	(0877)98-7663	hanzan-j@mei.ed.jp
副会長	眞下 美香	坂出市立坂出中学校	校長	762-0026	坂出市小山町2番1号	(0877)46-1188	(0877)56-2356	sakaide@sakaide.ed.jp
副会長	十河 聖司	観音寺市立中部中学校	校長	768-0040	観音寺市柞田町甲1237番地	(0875)25-3622	(0875)25-3622	chuubu_chuu@city.kanonji.lg.jp
副会長	大路 仁	さぬき市立長尾中学校	校長	769-2301	さぬき市長尾東954番地	(0879)52-3182	(0879)52-6543	nagao-jhs@sanuki.ed.jp
事務局 局長	大原 一仁	三豊市観音寺市立三豊中学校	校長	768-0101	三豊市山本町辻876番地	(0875)63-3028	(0875)63-3059	mitoyojh@city.mitoyo.lg.jp
事務局 次長	中野 光夫	三豊市観音寺市立三豊中学校	教頭	768-0101	三豊市山本町辻876番地	(0875)63-3028	(0875)63-3059	mitoyojh@city.mitoyo.lg.jp
研究部 部長	江口 俊史	さぬき市立さぬき南中学校	校長	761-0901	さぬき市大川町富田西2823番地1	(0879)43-4304	(0879)43-4308	sanukiminami-jhs@sanuki.ed.jp
研究部 次長	石川 恭広	香川大学教育学部附属坂出中学校	副校長	762-0037	坂出市青葉町1番7号	(0877)46-2695	(0877)46-4428	sakachu@ed.kagawa-u.ac.jp
研究部 次長	藪内 康則	香川大学教育学部附属高松中学校	副校長	761-8082	高松市鹿角町394番地	(087)886-2121	(087)886-2124	takachu@ed.kagawa-u.ac.jp
監 査	大北 徹	丸亀市立南中学校	校長	763-0093	丸亀市郡家町3690番地	(0877)25-0700	(0875)25-0854	minami-j@mei.ed.jp
監 査	有木 秀樹	多度津町立多度津中学校	校長	766-0003	仲多度郡多度津町本通二丁目11番55号	(0877)33-2271	(0877)56-6410	info@tadotsuchuu.tadotsu.jp

支 部 役 員

No	支部	支 部 長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学校所在地	電話番号
1	高松	小西 一郎	山田	761-0443	高松市川島東町1257-1	(087)848-0071	横山 和博	龍雲	761-8077	高 出 作 町 331-2	(087)889-0131	吉田 崇	龍雲	761-8077	高 出 作 町 331-2	(087)889-0131
2	丸亀	大北 徹	丸南	763-0093	丸 郡家町3690	(0877)25-0700	岡野 隆伸	綾歌	761-2406	丸 綾歌町栗熊東431	(0877)86-2006	池下 香	綾歌	761-2406	丸 綾歌町栗熊東431	(0877)86-2006
3	坂出	眞下 美香	坂出	762-0026	坂 小山町2-1	(0877)46-1188	中尾 孝志	坂出東	762-0003	坂 久米町2-7-46	(0877)46-2159	中尾 孝志	坂出東	762-0003	坂 久米町2-7-46	(0877)46-2159
4	小豆	平野 卓	豊島	761-4661	小 土庄町豊島家浦2516	(0879)68-2020	竹田 昌弘	土庄	761-4121	小 土庄町湖崎甲1936	(0879)62-0054	竹田 昌弘	土庄	761-4121	小 土庄町湖崎甲1936	(0879)62-0054
5	さぬき 東かがわ	大路 仁	長尾	769-2301	さ 長尾東954	(0879)52-3182	江口 俊史	さぬき南	761-0901	さ 大川町富田西2823-1	(0879)43-4304	横尾 昌彦	度津	769-2101	さ 志度2214-4	(087)894-0148
6	仲多度 善通寺	有木 秀樹	多度津	764-0014	仲 多度津町本通2-11-55	(0877)33-2271	佐藤 理香	多度津	764-0014	仲 多度津町本通2-11-55	(0877)33-2271	佐藤 理香	多度津	764-0014	仲 多度津町本通2-11-55	(0877)33-2271
7	三豊 観音寺	十河 聖司	観中部	768-0040	観 柞田町甲1237	(0875)25-3622	森 清司	豊中	769-1506	三 豊中町本山甲148-1	(0875)62-2071	高橋 涉	観中部	768-0040	観 柞田町甲1237	(0875)25-3622

部 会 役 員

No	部 会	部会長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	事務局長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号	会計長	勤務校	〒	学 校 所 在 地	電話番号
1	国 語	小林 理昭	善 西	765-0013	善 文京町4-1-1	(0877) 62-2340	田村 恭子	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	木村 香織	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
2	社 会	吉本 睦	宇多津	769-0210	綾 宇多津町3302	(0877) 49-0818	大和田 俊	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	大西 正芳	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
3	数 学	半山 章人	白 峰	762-0012	坂 林田町181-1	(0877) 47-0211	太田 隆志	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	山野 景子	飯 山	762-0082	丸 飯山町川原1110	(0877) 98-2027
4	理 科	増田 聖	国分寺	761-0101	高 国分寺町新居1131-1	(087) 874-0031	赤木 隆宏	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	川野 直美	協 和	761-0311	高 元山町88-2	(087) 867-5937
5	音 楽	白井 隆	太 田	761-8073	高 太田下町1800	(087) 866-1370	堀田 真央	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	中島美奈子	丸 東	763-0034	丸 大手町1-5-1	(0877) 22-4154
6	美 術	牧野 雅弘	大野原	769-1612	観 大野原町中姫1189-3	(0875) 54-3100	渡邊 洋往	附坂出	761-8082	坂 青葉町1-7	(0877) 46-8170	板谷 優菜	香川一	761-1703	高 香川町浅野1188	(087) 879-2131
7	保 健 体 育	三好 昭彦	香川一	761-1703	高 香川町浅野1188	(087) 879-2131	増田 一仁	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121	芝野 明莉	附高松	761-8082	高 鹿角町394	(087) 886-2121
8	技 術 家	宇野 誓起	三野津	767-0032	三 三野町下高瀬720	(0875) 72-5209	渡邊 広規	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	大西 昌代	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
9	英 語	西野美智子	豊 浜	769-1602	観 豊浜町和田浜717	(0875) 52-2152	眞鍋 谷子	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695	黒田 健太	附坂出	762-0037	坂 青葉町1-7	(0877) 46-2695
10	養 護	遠藤 賢	丸 東	763-0034	丸 大手町1-5-1	(0877) 22-4154	大倉 陽子	丸 東	763-0034	丸 大手町1-5-1	(0877) 22-4154	篠原 麻佑	丸 南	763-0093	丸 郡家町3690	(0877) 25-0700
11	道 徳	安藤 孝泰	善 東	765-0014	善 生野本町2-14-1	(0877) 62-2360	別府 雅則	善 東	765-0014	善 生野本町2-14-1	(0877) 62-2360	小西ゆかり	さぬき南	761-0901	さ 大川町富田西2823-1	(0879) 43-4304
12	特 別 活 動	久保田員生	詫 間	769-1101	三 詫間町詫間5796-1	(0875) 83-2108	高橋 正	豊 浜	769-1602	観 豊浜町和田浜717	(0875) 52-2152	白川喜代子	豊 中	769-1506	三 豊中町本山甲148-1	(0875) 62-2071
13	生 徒 指 導	雉鳥 友康	鶴 尾	761-8052	高 松並町639-1	(087) 867-3382	池内 直樹	香川一	761-1703	高 香川町浅野1188	(087) 879-2131	三好 崇	勝 賀	761-8014	高 高松市香西南町565	(087) 881-3141
14	メ デ ィ ア 教 育	水野 敏孝	塩 江	761-1611	高 塩江町安原上231-1	(087) 893-0032	竹本 弘	善 西	765-0013	善 文京町4-1-1	(0877) 62-2340	秋庭 弘貴	古高松	761-0102	高 新田町甲190-1	(087) 841-1577
15	人 権 同 和 教 育	梅木 敏伸	香 東	761-8044	高 円座町771	(087) 886-6580	久保 賢吾	協 和	761-0311	高 元山町88-2	(087) 867-5937	瀧井 康紀	鶴 尾	761-8052	坂 松並町639-1	(087) 867-3382
16	学 校 図 書 館	籤根 賢次	白 鳥	769-2705	東 白鳥757-1	(0879) 26-3113	三枝 惠	小豆島	761-4431	小 小豆島町片城甲44-1	(0879) 82-2136	木村恵理子	長 尾	769-2301	さ 長尾東954	(0879) 52-3182
17	教 育 相 談	永岑 光喜	庵 治	761-0130	高 庵治町691-1	(087) 871-2716	山下 久一	庵 治	761-0130	高 庵治町691-1	(087) 871-2716	滝 あい	桜 町	760-0074	高 桜町2-12-4	(087) 861-1668
18	特 別 支 援 教 育	大西 祥弘	附特支	762-0024	坂 府中町綾坂889	(0877) 48-2694	佐藤 淳	綾 南	761-2103	綾 綾川町陶5593-1	(087) 876-1187	高木 由佳	綾 南	761-2103	綾 綾川町陶5593-1	(087) 876-1187
19	へ き 地	溝淵 浩二	男 木	760-0091	高 男木町165	(087) 873-0506	樋口 倫	丸 本	763-0223	丸 本島町泊18	(0877) 27-3415	藤澤 一恵	男 木	760-0091	高 男木町165	(087) 873-0506
20	学 校 事 務	溝淵 隆弘	牟 礼	761-0121	高 牟礼町牟礼46	(087) 845-9604	金子 紘二	紫 雲	760-0015	高 紫雲町8-25	(087) 861-7144	毛利奈那江	直 島	761-3110	香 直島町1580	(087) 892-3011
21	学 校 給 食	小西 一郎	山 田	761-0443	高 川島東町1257-1	(087) 848-0071	赤松 輝美	山 田	761-0443	高 川島東町1257-1	(087) 848-0071	松崎美彩子	香川一	761-1703	高 香川町浅野1188	(087) 879-2131

令和2年度 予算

4 部会配分金

1 会員数	2058 人	
2 収入と支出		
【収入】		
会員会費	2,925円×2058人	6,019,650 円
助成金		100,000 円
繰越金		612,575 円
利息		500 円
合計		6,732,725 円
【支出】		
各郡市支部	1,425円×2058人	2,932,650 円
各教科・教科外部会		1,004,000 円
研究大会補助金	35,000円×5 + 50,000円×1 + 80,000円×1	305,000 円
本部事務局費		2,491,075 円
合計		6,732,725 円
※本部事務局費（予備費）		1,091,075 円

3 支部別会員数および配分金額

支部番号・支部名	令和元年度会員数	令和2年度会員数	配分金
1 高松支部	919	927	1,320,975 円
2 丸亀支部	232	234	333,450 円
3 坂出・綾歌支部	227	220	313,500 円
4 小豆支部	77	73	104,025 円
5 さぬき・東かがわ支部	154	150	213,750 円
6 仲多度・善通寺支部	170	165	235,125 円
7 三豊・観音寺支部	299	289	411,825 円
合計	2,078	2,058	2,932,650 円

・各支部への配分金は1,425円×会員数
 ・県大会については教科35,000円、特別の教科・教科外（養護含む）50,000円、四国以上の大会は80,000円の助成金とする。
 ・養護部会を含め研究大会がない特別の教科・教科外部会は36,000円の基礎配分、研究大会がある部会は144,000円の基礎配分とする。ただし、教科部会は従来通りで変更なしとする。
 ・事前研究費として養護部会及び特別の教科・教科外部会に50,000円を助成する。

部会名	基礎配分金	研究大会補助金				合計
		事前研究	県大会	四国大会	全国大会	
1 国語	56,000					56,000
2 社会	56,000		35,000			91,000
3 数学	56,000		35,000			91,000
4 理科	56,000					56,000
5 音楽	40,000		35,000			75,000
6 美術	40,000		35,000			75,000
7 保健体育	56,000			80,000		136,000
8 技術・家庭	48,000		35,000			83,000
9 英語	56,000					56,000
10 養護	144,000		50,000			194,000
11 道徳教育	36,000					36,000
12 特別活動(進路指導)	36,000					36,000
13 生徒指導	36,000					36,000
14 メディア教育	36,000					36,000
15 人権・同和教育	36,000					36,000
16 学校図書館	36,000					36,000
17 教育相談	36,000	R2「特別活動部会」に統合				36,000
18 特別支援教育	36,000					36,000
19 へき地教育	36,000					36,000
20 学校事務	36,000					36,000
21 進路指導		R2「特別活動部会」に統合				
21 学校給食	36,000					36,000
部会配分金	1,004,000	0	225,000	80,000	0	1,309,000
支部配分金	2,932,650					2,932,650
本部事務局(旅費等)	1,400,000					1,400,000
本部事務局(予備費)	1,091,075					1,091,075
合計	6,427,725	0	225,000	80,000	0	6,732,725

香川県中学校教育研究会 会則

(名 称)

第1条 本会は、香川県中学校教育研究会という。

(事 務 所)

第2条 本会の事務所は、原則として会長が定める学校内におく。

(目 的)

第3条 本会は、中学校教育に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は県内中学校に勤務する教職員をもって組織し、下記の支部と部会をおく。

高 松 支 部	国語教育研究部会	道徳教育研究部会
丸 亀 支 部	社会科教育研究部会	特別活動研究部会
坂 出・綾 歌 支 部	数学教育研究部会	生徒指導研究部会
小 豆 支 部	理科教育研究部会	メディア教育研究部会
さぬき・東かがわ支部	音楽教育研究部会	人権・同和教育研究部会
仲多度・善通寺支部	美術教育研究部会	学校図書館研究部会
三 豊・観 音 寺 支 部	保健体育教育研究部会	教育相談研究部会
	技術・家庭科教育研究部会	特別支援教育研究部会
	英語教育研究部会	へき地教育研究部会
	養 護 研 究 部 会	学校事務研究部会
		学校給食研究部会

第5条 支部・部会の運営については細則をもって定める。

(事 業)

第6条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 2 各教科、道徳、特別活動、およびその他の中学校教育に関する研究活動の育成と振興
- 3 教育に関する研究団体および関係機関との連絡提携
- 4 研究会、講演会、講習会の開催
- 5 その他必要な事業

(役 員)

第7条 本会は、会長1名および副会長3名をおく。

- 2 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第8条 会長及び副会長は、運営委員会において選出する。

- 2 役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 3 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

第9条 本会に会計監査2名をおく。

- 2 会計監査は、会計事務を監査する。
- 3 会計監査は、運営委員会において選出する。

(役 員 会)

第10条 本会の運営について協議するため、本会に役員会をおく。

- 2 役員会は、会長、副会長、事務局長、事務局次長、研究部長、研究部次長、監査、各支部長をもって構成する。
- 3 役員会は会長が招集する。

(運営委員会)

第11条 本会の運営について協議するため、本会に運営委員会をおく。

2 運営委員会は、会長、副会長、県校長会理事、第4条にかかげる各支部の代表者1名および各研究部会の代表者1名をもって構成する。

3 運営委員会は会長が招集する。

4 本会の予算決算は運営委員会で承認する。

第11条の2 会長は必要あるときは、支部長会、教科部会長会、特別の教科・教科外部会長会を招集することができる。

(事務局)

第12条 本会に事務局をおき、庶務部と研究部をおく。

2 事務局には事務局長、事務局次長、研究部長、研究部次長をおく。

3 前項の職員は会長が委嘱する。

4 事務局長は、本会の事務を処理する。

5 事務局次長は、事務局長を補佐し、事務を整理する。

6 別に第4条にかかげる支部および研究部会にそれぞれ部会事務局長をおき、本会の事務処理を補佐する。

7 研究部長は、本会の研究活動を推進する。

8 研究部次長は、研究部長を補佐する。

(経理)

第13条 本会経費は、会費、補助金、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり翌年3月31日に終わる。

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、運営委員会で出席委員の3分の2以上の賛成で議決しなければならない。

附 則

1 この会則は、昭和36年5月1日から実行する。

2 昭和38年7月5日改正

昭和40年5月26日改正

昭和42年7月20日改正

昭和43年1月17日改正

昭和46年12月7日改正（昭和47年4月1日より施行）

昭和51年1月30日（2部会の名称変更）

昭和54年12月17日（1部会新設）

昭和55年12月16日（1部会廃止）

昭和63年12月1日（1部会新設）

平成6年12月13日（1部会新設）

平成11年12月10日（1部会新設）

平成12年12月8日（1部会統合 平成13年4月1日より施行）

平成13年12月7日（第10条の2追加・一部修正 平成14年4月1日より施行）

平成15年5月30日（第4条の一部修正）

平成17年12月6日（支部再編及び部会統廃合のため第4条の一部修正

平成18年4月1日より施行）

平成18年12月14日（1部会の名称変更平成19年4月1日より施行）

平成30年5月24日（第10条の2・名称の一部修正）

令和元年5月23日（第10条新設）

令和2年5月21日（2部会廃止、1部会新設、1部会統合）

香川県中学校教育研究会

部会運営細則

(名 称)

第1条 本会は、香川県中学校教育研究会〇〇研究部会という。

(事 務 所)

第2条 本会の事務所は原則として会長が定める学校内におく。

(目 的)

第3条 本会は〇〇に関する研究活動等を通じて香川県中学校教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第4条 本会は、香川県内中学校に勤務する教職員をもって組織する。

(事 業)

第5条 本会は、前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- 1 中学校〇〇に関する研究活動の育成と振興
- 2 中学校〇〇に関する研究団体および関係機関との連絡提携
- 3 研究会、講演会、講習会の開催
- 4 その他必要な事業

(役 員)

第6条 本会は、会長1名および副会長〇名をおく。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を掌理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

第7条 会長および副会長は、理事会において選出する。

- 1 役員任期は1年とする。
ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

第8条 本会に、会計監査2名をおく。

- 1 会計監査は、会計事務を監査する。
- 2 会計監査は、理事会において選出する。

(事 務 局)

第9条 本会事務局をおく。

- 1 事務局には、事務局長、会計長をおく。
- 2 前項の職員は、会長が委嘱する。
- 3 事務局長には、本会の事務を処理する。
- 4 会計長は、本会の経理を処理する。

(経 理)

第10条 本会の経費は、本部よりの配分金をもってこれに当てる。
本会経費の運用は、年度当初の予算をもって執行する。

(会 計 年 度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日に終わる。

附 則 この細則は、昭和36年5月1日より実施する。

香中研研究大会開催地区割り当て計画

(平成26年度第2回運営委員会でH30～R8変更、R1.12.6現在)

(アルファベット：県大会 ◎：四国大会・中四国大会 ☆：全国大会)

【教科】

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
国語			A ◎			D			C		A ◎				E ☆				B ◎			
社会				A ☆		E		B ◎				D				C ◎		E				A ☆
数学			D				A ◎		C			E			B ◎			A				
理科			E ◎			A			B		C ◎				A			D				
音楽			A			B			E ◎			A			D			A ◎				
美術		E ◎				A				A ◎		D			B			A				
保健体育			B ◎			A			D			A ◎			E			C				
技術・家庭	B ◎		C			E				A ◎		C A			D			B				E ◎
英語			D		A ◎				B				A ◎		A			E				
養護			A			C			E			B			A			D				

【特別の教科・教科外】

	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
道徳教育			A ☆		D			C			E ◎			B				A ◎				
特別活動	B			C			A			D				E			A					
生徒指導	A			D			E			C				A			B					
メディア教育		C ◎		E			D			B ◎				A			C					
人権・同和教育	C			A			B			E				A			D					
学校図書館			C ◎		A		B				E ◎	☆		D		☆	A					
学校保健		C			E		A				B			A			D					
特別支援教育			B ◎		A		D				A ◎			E			C					
へき地教育	①			② ◎							①				②				①			
学校事務			I				II				III			IV			I					
学校給食		B			C			A			B			A			E					

<備考> A = 高松、B = 丸亀・仲多度・善通寺、C = 坂出・綾歌、D = 小豆・さぬき・東かがわ

E = 三豊・観音寺

- ・ へき地教育のブロック割り①高・小・直、②丸・坂・三観の2ブロック
- ・ へき地教育は、香小研と共同開催のために、4年ごとの別ローテーション
- ・ 学校事務は香小研と共同開催ではあるが、3年ごとのローテーション

香中研とはこのような団体です

Q 1 香川県中学校教育研究会（香中研）とは、どのような組織ですか？

- A
- 香中研は昭和36年に発足した研究団体で、結成以来50年あまりの歴史と伝統を誇っています。
 - 県内全域を網羅する7つの支部と、中学校教育のほぼすべての教育活動を網羅する21の教科・特別の教科・教科外研究部会を有しており、研究活動等を通して香川県中学校教育の振興を目的としています。
 - 県内すべての市・町立中学校、県立中学校、国立大学法人附属中学校・特別支援学校と、一部の県立特別支援学校、私立中学校に勤務する多くの教職員が加入しており、令和2年度の会員数は2,058名です。

Q 2 香中研はどのような活動をしているのですか？

- A
- 各支部（7支部）単位で、地域や各学校の実態に即した研究活動等を行っています。
 - 支部会員や県内全域の会員を対象とした研修会や研究大会を定期的で開催し、先進的な研究実践を発表したり日頃の取組について情報交換したりするなどして、研究の成果を広く県下に普及させています。
 - 研究大会等に向けた研究実践の情報交換等を通して、支部内はもとより広く県内会員相互の親睦が深められるとともに、互いに切磋琢磨しながら研究を進めたり研究発表の機会を提供したりすることが、中学校教職員としての仲間づくりにもつながっています。
 - 支部や県レベルで計画的・組織的に事業を展開しているので、香川県の中学校教育の充実や教職員全体の資質・能力の向上に大きく貢献しています。
 - 四国大会や全国大会を本県で開催したり、大会等で研究発表したりする際にも、香中研が推進の中核となっています。

Q 3 教育委員会や中学校長会との関係はどのようになっていますか？

- A
- 香中研は、香川県教育委員会や市町教育委員会、中学校長会との密接な連携の下に運営されています。
 - 香川県教育委員会や市町教育委員会の指導・助言を得ながら、授業研究など学校現場における日々の教育実践を重視した研究活動等を進めています。
 - 教育委員会の教育の基本理念や教育方針、重点項目、教育施策等を具現化する研究活動等を進めています。

Q 4 教育委員会等から香中研に対して、具体的にどのような支援や配慮がされているのですか？

- A
- 市・町立中学校の香中研会員には、関係市・町から会費の半額程度が教育関係団体補助金として援助されています。これにより、会員の実質負担額が大幅に軽減されています。
 - 香川県教育委員会から研究委託を受け、研究活動に対する指導・助言を得るとともに、研究活動費の支援も受けています。

※ 組織等に関する詳細については、会則をご覧ください。

香川県中学校教育研究会

研 究 紀 要

第61号

発 刊 日 令和3年3月31日

編集・発行 香川県中学校教育研究会
事務局 三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校
〒768-0101
三豊市山本町辻876番地
編集委員長 大原 一仁（本部事務局長）
中野 光夫（本部事務局次長）

香中研研究紀要

URL <http://www.kachuken.jp/honbu/news/>

印 刷 所 株式会社美巧社
高松市多賀町1丁目8番10

表紙デザイン：高松市立香南中学校 橋本 武生



香川県中学校教育研究会

The Society of Education for Junior High Schools, KAGAWA

2020

